

令和4年度(2022年度) 事業報告書

①理事会等の開催状況

	理事会(回)	理事協議会(回)	評議員会(回)	加盟加盟会議(回)	評議員選任(回)
2020年	10	0	1	11	0
2021年	9	0	3	10	1
2022年	9	2	2	11	0

②その他の会議の開催状況

	第三者委員会(回)	第1期中期経営計画推進委員会(回)	経営計画推進会議(回)	会議(回)	会議(回)	会議(回)
2020年	2	4	17	0		
2021年	2	0	0	5		
2022年	2	0	0	3		

③理事長職務執行状況報告

	報告回数	④研修会の開催状況
2020年	2	役員研修会(回)
2021年	2	2020年 0
2022年	2	2021年 0
		2022年 3(役員・職員合同研修会)

⑤社会福祉充実残額

	金額(千円)
2020年	295,400
2021年	378,900
2022年	450,800

前年度実績及び評価

⑥経営状況(法人全体)

	法人全体 (円)	
	サード活動収益	サード活動増減差額
2020年	726,145,075	83,538,324
2021年	739,545,985	92,973,495
2022年	749,474,409	74,628,533

⑦経営状況(本部拠点区分)

	本部拠点区分 (円)	
	サード活動収益	サード活動増減差額
2020年	0	-1,702,029
2021年	0	-1,791,503
2022年	112,619	-34,741,796

①理事会等の開催状況について

令和4年度も新型コロナウイルス感染症が生活や社会全般に大きな影響を及ぼし続ける中、感染対策に万全の対策を講じながら、理事会、評議員会、理事協議会は予定通り開催を行った。
 ナイサードセンター様の建設事業やアソシアニの譲渡等重要案件について継続的に審議を行った。

②その他の会議の開催状況について

重要案件(第2期中期経営計画の策定、電子システム導入の検討、隔たり施設の今後の経営改革HPのリニューアルなど)について、その都度、施設長および次長と協議を行い、情報共有に努めた。

③理事長職務執行状況報告について

決算期、上半期終了時の年間2回実施した。第1期中期経営計画に基づく進捗や課題を整理し、執行状況の資料として様式を整理して添付し、法人全体の経営状況をより分かりやすく報告を行った。

④研修会の開催状況について

令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策に注意しながら、職員と役員が一緒になって3回開催を行った。

⑤社会福祉充実残額について

令和4年度は令和3年度末で378,900千円の充実残額が生じ、第2期計画(R4～R8)の策定を行い、理事会、評議員会、市の承認を受けた。令和4年度の重要事業としてナイサードセンターの建設事業を見込んでいたが、資材入荷の遅延など諸事情により令和5年度に事業を繰り越した。

⑥経営状況(法人全体)について

法人全体としては、当期活動増減差額を7%以上確保できている。(9.8%)

⑦経営状況(本部拠点区分)について

令和4年度から専属化した事務局本部を設置し、法人全体の機能強化や持続可能な安定した事業運営の歩み始めた。特別な業務の変更以外大きな変動はなかった。
 (2020年度=経営計画策定業務 2021年度=ネットワーク構築LAN工事 2022年度=朝規見直し業務)

⑧その他(特筆すべき事項)

- ・ナイサードセンター 藤建設事業
喫煙の重要施策のナイサードセンター 藤建設事業が国庫補助事業採択を受け事業着手に至った。
- ・アソシアニの譲渡問題
市指定管理施設「アソシアニ」の譲渡問題について市から令和4年度末を持って譲渡の話があり、協議を重ねた結果、様々な課題に一定の期間を要することから令和7年度末に期間が延長された。
- ・電子システム(給与・人事・勤怠)導入の検討
令和4年度に幾度となく導入の検討やリモートレコーディングを行ったが、当法人のソフト作成に対応が難しいことと経費面(後年度保守料)が高価であるため、今回の導入は見送る結論となった。

令和4年度(2022年度) 事業報告書

事業所 法人本部

1:目指す姿 どのような法人を目指すのか。 求める福祉が どこにある 地域とともに 福祉を創る たかしま会 令和4年度は「第1期中期経営計画」の2年目にあたり、本格的な体制・機能充実に取り組み年度である。	目標数値	令和4年度の振り返り(取り組み実績)
①法人本部事務局体制の充実 : 法人本部の新しい機能充実に向けた事務局体制がスタートする(令和4年4月1日から新事務局体制で実施) <ul style="list-style-type: none"> ・ 早急に法人事務局として取り組むべき事務の課題整理 ・ (各種例規の整理・職員研修計画の策定・社会保険業務の一元化他) ・ 令和5年度以降に導入すべき事務課題の検討 ・ (法人重荷の一元管理・電子システム(給与・人事・勤怠)の導入・定年延長制度の導入・第2期中期経営計画策定準備) 	目標 R4年12月 完了 目標 R5年3月 完了	事務局職員会議でロードマップを作成し、予定どおり進捗を図った。 令和5年度以降に実施する方向で準備・検討を進めた。
②職員体制の再構築 : 法人全体の適正な人員配置を検討する <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所ごとの人員の再検証 ・ (事業量に見合う人員配置の再検証) ・ 法人全体での人員配置の再検証 (法人本部事務局の業務職員の専属化、施設長・次長・主任クラスの職務分担の見直し)	目標 R5年3月 完了 目標 R5年3月 完了	令和5年度の人事異動を見据えて、法人全体および事業所ごとの適正な人員配置の検討を行った。
③財基盤の強化 : 経営の安定化を図る(サービスの質の向上、地域福祉推進に寄与、働きやすい職場作り等達成のため)に <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人全体で、当期活動増減差額を7%以上確保する ・ (法人全体当期活動増減差額/法人全体サービス活動収益) ・ 各事業所【2022年経営計画】を参照 ・ 社会福祉充実計画(R4～R8年度)の策定 第5ヶ年計画の策定および実施	目標 当期活動増減差額7%以上 目標 R4年6月 策定	令和4年6月の理事会および評議員会で次期社会福祉充実計画(R4～R8年度)の承認を受けた。 今後年次計画に基づき事業進捗を図る。
④経営理念の浸透(継続) : 全役職員が理念・倫理綱領のもと行動する <ul style="list-style-type: none"> ・ 各事業所で朝礼時「たかしま会理念」を唱和する ・ 理事会、評議員会の開催時「たかしま会理念」を唱和する 	目標 R3年4月 から 目標 R3年4月 から	各事業所で実施した。 理事会、評議員会の議案書に資料として毎回添付した。
⑤効率的・効果的な事務規律の確立 : 法人全体としての事務処理の統一とコスト意識の醸成を図る <ul style="list-style-type: none"> ・ 【事務処理の手引き】、【契約事務の手引き】の作成 ・ 経営計画のフォローアップ事務(資金計画の見直し) 	目標 R5年3月 完了 目標 R4年12月 完了	今後検討 今後検討
⑥トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実 <職員募集の法人一元化> <ul style="list-style-type: none"> ・ 採用計画の作成と募集戦略の検討(インターネットの効果的な活用他) ・ (再掲)事業所ごとの人員の再検証 ・ (再掲)事業量に見合う人員配置の再検証 ・ (再掲)法人全体での人員配置の再検証 法人本部事務局の業務職員の専属化、施設長・次長・主任クラスの職務分担の見直し(人材育成) <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員研修計画の策定 ・ 研修体系の整理と資格取得計画等の作成 ・ 経営計画の見える化) ・ ロゴマークの作成 経営計画の策定を契機にロゴマークを作成する	目標 R4年9月 完了 目標 R5年3月 完了 目標 R5年3月 完了 目標 R4年12月 完了 目標 R3年9月 完了	令和4年度から法人本部事務局で職員募集を一元化した。 令和4年度から法人本部事務局は、専属職員の配置を行った。 令和4年度から資格が必須の施設があるため、職員個別の計画的な研修計画を樹立の上 研修受講を順次実施した。 令和3年9月完了

当年度活動方針と事業の進め方

<p>⑦情報収集の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部要因の収集 経営計画のフォローアップ 	<p>通年</p>	<p>令和4年度は第2期経営計画策定の準備を始め、第1期経営計画の評価・検証を行い、次期計画の反映に努めた。</p>
<p>⑧サービスの質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 各事業所に、サービスの質の向上を推進 	<p>通年</p>	<p>各事業所と連携強化に努めた。</p>
<p>⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策の徹底 法人全体の事故件数の取りまとめと評価 	<p>通年 通年</p>	<p>継続的に実施した。</p>
<p>⑩老人福祉施設と障害福祉施設の併設の強味を活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> 各事業所に、連携強化を要請 	<p>通年</p>	<p>各事業所と連携強化に努めた。</p>
<p>⑪地域における公益的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会貢献事業「行こカー」の評価と充実 事業成果の評価と充実を図る(ボランティア活動等の連携強化) 地域福祉ニーズ調査 地域課題を整理し、社会福祉法人として取り組むべき方を検討 	<p>目標 R5年3月 完了</p>	<p>継続的に評価・検証を実施し、絶えず最新情報の把握に努めた。</p>
<p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の安全と健康の確保 職員の処遇の改善 有給休暇取得の促進 時間外労働の削減 良好な人間環境を維持する組織風土の醸成 定年延長制度の検討 	<p>目標 1回 通年 通年 通年 通年</p>	<p>継続的に実施した。 定年延長制度については今後において十分に協議・検討を要する。</p>
<p>⑬法人のブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> 各事業所に、ブランド化を推進 	<p>通年</p>	<p>各事業所と連携強化に努めた。</p>
<p>⑭広報活動の充実(情報発信の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 【ホームページ】管理委員会機能の活性化 広報活動の充実と情報発信の強化 	<p>目標 R5年3月 完了</p>	<p>令和5年度にホームページのリニューアルを実施する。</p>
<p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 各事業所に、先進的な技術やITの取り組みを推進 	<p>通年</p>	

当年度活動方針と事業の進め方

令和4年度(2022年度) 事業報告書

①養護入居者数及び利用実績

入居者数 (人/日平均)	措置費実績(円)			職員数 (人)	
	事業費	事務費	計	常勤	非常勤
2020年	36,530,601	88,837,697	125,368,298	17.6	10.2
2021年	35,151,454	81,712,981	116,864,435	16	9
2022年	32,654,516	74,239,314	106,893,830	14.0	6.0

②介護保険利用者および利用実績

利用者(人/月平均)	措置費実績(円)			平均介護度
	介護給付費	利用者負担金	計	
2020年	58,084,495	6,608,275	64,692,770	3.4
2021年	65,977,767	7,331,023	73,308,790	3.2
2022年	64,949,728	7,134,900	72,084,628	2.9

③経営状況

藤波園拠点区分事業総額 (円)			
	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額
2020年	198,154,247	123,859,440	11,578,338
2021年	193,730,207	124,052,154	9,956,323
2022年	189,808,503	125,110,939	9,867,75

①養護入居者数及び利用実績
 ・退所者数は5人(令和3年度は9人)と比較的退所者数も少なく、5人の措置入所と6人の契約入所があったことから入所者増につながったが、長期入院者も多かったことと新規入所も11月以降からの入所であったため、措置費・介護給付費の実績が減少した。
 ・入所者の内訳は高島市2人、大津市3人、契約入所6人(高島市5人、大津市1人)
 ・退所者の内訳はサービス高齢者住宅入居が1人(契約入所者)、死亡退所4人(看取り2人、入院死亡2人)
 ②介護保険利用者および利用実績
 ・特定施設利用者については4人の重度の入居者が死亡退所、6人の軽度の入居者が新規入所したことで、3月末には利用登録が28人となったものの、月平均実績では昨年の26.3人から25.5人となり、介護給付費についても減少した。

③経営状況について

・利用者数の減少に伴い、特定施設入居者生活介護事業所サービス区分および訪問介護事業所サービス区分の収支が減少した。
 ・契約入所収入は増えたものの、措置費収入の減少が大きく、拠点区分全体の収支差額が大きく減少した。

④生活支援

・行事は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して実施した。また、利用者の外出は見合わせ、地元商店の訪問販売や平和堂ホームサポートの利用、職員の買物代行により対応した。
 ・新型コロナウイルスワクチンを7月、2月に接種し、感染防止に努めた。

⑤環境整備

・新型コロナウイルス感染症拡大のため、面会を制限し、リモート面会・ガラス越し面会で対応した。
 12月の施設でのクラスター感染の終息後は静養室での対面での面会に切り替えた。
 ・検温、手すりなどの消毒等の感染対策は継続して行った。

⑥施設整備

・合築より10年を超え、機械器具の修繕できない故障が多く、買替が必要となるが増加した。
 (令和4年度 大型乾燥機の交換、エレベーター、空調設備の修繕等を行った。)

⑦その他(特筆すべき事項)

・施設にて11月 10人(利用者 8人、職員2人)、12月 49人(利用者41人、職員8人)の新型コロナウイルススクラスター感染発生、3人の利用者が入院加療したが、全員の方が軽快し終息に至った。

前年度実績及び評価

令和4年度(2022年度) 事業報告書

事業所 藤波園

1: 目指す姿 どのような事業所を目指すのか。 尊厳のある生活の場と経営の安定を目指して		目標数値	令和4年度の振り返り(取り組み実績)																
① 法人事務局体制の充実 : 法人本部の方針に準じ、連携して実施			・法人本部の方針に準じ、連携して実施した。																
② 職員体制の再構築 : 法人本部の方針に準じ、連携して実施			・法人本部の方針に準じ、連携して実施した。																
③ 財政基盤の強化(特定施設の健全経営)		年平均入居者 目標 <input type="text" value="56.0"/> 人 実績 <input type="text" value="53.0"/> 人	近隣市町に空き情報を発信したが、措置入所は大津市からの3人と高島市からの2人の5人であった。(5人退所)																
: 入居者および介護保険利用者の確保による収益の向上 ・ 新規入居者の確保、契約入所の促進 年平均介護保険利用者 近隣市町村に対する空き情報の発信と関係強化 ・ 介護認定の早期申請と入居時の病状等の 契約入所 確認および介護方針の協議		目標 <input type="text" value="28.0"/> 人 実績 <input type="text" value="25.5"/> 人	昨年度は26.3人で、介護保険利用者の増員のため新規申請、区分変更などを行ったが、入居者数の落ち込みから目標数値を下回った。 措置控え等による入居者減少から今年度は契約入所を積極的にに行い、6人の契約入所を獲得した。																
④ 経営理念の浸透 : 法人本部の方針に準じ、連携して実施			・ 毎月の職員会議で理念の唱和を行った。																
⑤ 効率的・効果的な事務規律の確立 : 法人本部の方針に準じ、連携して実施			・ 法人本部の方針に準じ、連携を図った。																
⑥ トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実 : 法人本部の方針に準じ、連携して実施			・ 事業所にて必要とされる資格取得のための研修を受講した。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td>人</td> <td>介護職員初任者研修</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td>人</td> <td>認知症介護基礎研修</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td>人</td> <td>認知症介護実践者研修</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td>人</td> <td>認知症介護サービス事業者管理者研修</td> </tr> </table>	実績	2	人	介護職員初任者研修	実績	2	人	認知症介護基礎研修	実績	1	人	認知症介護実践者研修	実績	1	人	認知症介護サービス事業者管理者研修
実績	2	人	介護職員初任者研修																
実績	2	人	認知症介護基礎研修																
実績	1	人	認知症介護実践者研修																
実績	1	人	認知症介護サービス事業者管理者研修																

当年度活動方針と事業の進め方

<p>⑦情報の収集体制の強化</p> <p>： 法人本部の方針に準じ、連携して実施</p> <p>⑧サービスの質の向上</p> <p>： 常に入居者の立場にたった良質で適正なサービスが継続的に提供できるよう、職員の質の向上を目指す。</p> <p>〈人材育成〉</p> <p>： 職員のスキルアップ(適正な介護技術の習得)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員研修 <p>： 職員のスキルアップ(虐待防止に向けた取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員研修 <p>： 職員の資格取得に向けての支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援予定人数 介護福祉士・介護支援専門員 各1名 <p>： 職員のスキルアップ(職員の質向上)</p>	<p>高島市外の地域包括へ契約入所のPRを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高島市老人福祉施設協議会、滋賀県老人福祉施設協議会とも協議し、契約入所、措置入所の行政への進言など情報交換とアピールに努めた。
<p>⑨安全で衛生的かつ快適な環境の整備</p> <p>： 法人本部の方針に準じ、連携して実施</p> <p>⑩老人福祉施設と障害福祉施設の併設の強味を活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度に試験的に実施した事業をベースに検討する。 <p>藤の樹工房および藤美寮と協議し、事業実施を検討する。</p> <p>⑪地域における公益的な取り組み(共生社会を見据えた取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利益追求のための定員確保を目指すのではなく、緊急避難的に養護老人ホームを必要とする方のための受け皿として事業運営を行う。 <p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <p>： 法人本部の方針に準じ、連携して実施</p> <p>⑬法人のブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養護老人ホームの意義および必要性を県内市町に対し発信する。 <p>⑭広報活動の充実</p> <p>： 積極的な広報活動やボランティアの受入れ</p> <p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <p>： 法人本部の方針に準じ、連携して実施</p> <p>： 新しく導入した介護保険ソフトを活用した入居者の健康管理</p>	<p>目標 <input type="text" value="5"/> 人</p> <p>実績 <input type="text" value="2"/> 人 介護職員初任者研修</p> <p>目標 <input type="text" value="5"/> 人</p> <p>実績 <input type="text" value="3"/> 人 身体拘束ゼロセミナー、高齢者虐待防止研修会</p> <p>目標 <input type="text" value="2"/> 人</p> <p>実績 <input type="text" value="0"/> 人 合格者はなかった。</p> <p>実績 <input type="text" value="5"/> 回 所内研修(リスクマネジメント、感染対策等)</p> <p>・利用者・職員のコロナワクチン接種を行い、本部とも連携してクラスター時の広報や対策基準なども設定、BCPと合わせてマニュアルの見直しは継続中。</p> <p>・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、他施設との交流事業は見合わせた。</p> <p>・11月以降 緊急ショートステイの利用が増え、その後入所に至るケースが続いた。措置にはかからない生活困難者には契約入所を勧めた。</p> <p>・ 法人本部の方針に準じ、連携して実施した。</p> <p>・近隣市町に空き情報を定期的に発信した。</p> <p>・高島市・大津市の地域包括支援センター、草津市へ入所説明に出向いた。</p> <p>・コロナ感染拡大防止のため、外部からの立入りを制限したことによりボランティアの受入れはなかった。</p> <p>・タブレット端末を利用し、リモート面会を実施した。</p> <p>・介護保険ソフトを活用した入居者の状態管理に努めた。</p>

当年度活動方針と事業の進め方

令和4年度(2022年度) 事業報告

①契約者数及び利用実績		在籍職員数 (人)	
平均契約者数 (人)		2020年	17
2020年	17	2021年	16
2021年	18	2022年	15
2022年	17		

②介護給付費	
給付費 (円)	
2020年	41,230,379
2021年	38,775,058
2022年	36,167,899

利用実績		
	所要日数(日)	延利用者数(人)
2020年	366	7,099
2021年	365	6,535
2022年	365	5,859

利用実績内訳			
	通いサービス	宿泊サービス	訪問サービス
2020年	3,136	262	3,896
2021年	2,893	297	3,345
2022年	2,462	346	3,051

③経営状況				
事業総額 (円)				
	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2020年	49,174,080	42,538,139	△ 7,674,443	△ 7,650,376
2021年	46,005,031	38,114,225	△ 6,047,373	△ 6,147,785
2022年	43,669,158	38,331,341	△ 8,941,692	△ 8,898,212

- ①契約者数について
- ・新規契約は6件あったが施設入所・死亡により契約者数が伸び悩んだ。
 - ・民生委員、区長、区の集いなどでイベントにて利用案内をしたが、契約に結びつかなかった。
 - ・湖西ニュータウン、サニータウンへもチラシを戸別配布をした。
- ②介護給付費および利用実績について
- ・介護給付費も前年と比べ下がった。
 - ・利用実績は全体として減少したが、宿泊の利用者は増えた。

- ③経営状況について
- ・昨年度は利用契約数減少のため、人件費を削減し、健全化を図った。利用契約数は維持したものの、利用者の介護度の軽度化及び入院により介護給付費の減少が著しかった。
 - ・他の居宅支援事業所及び地域包括支援センターの紹介ケースもあるが、毎日3回の調理支援を求められるなどの困難事例が多く、現状の職員体制では断らざるを得なかった。

- ④生活支援
- ・新型コロナウイルス感染症への配慮から、外部ボランティアの受入等は見合わせた。
 - ・蔓延防止、緊急事態宣言を受けたが、活動を施設内に絞り、感染対策を行い行事を実施した。
 - ・消毒、マスクの着用、利用開始前の検温等を徹底し、感染拡大防止に努めた。
- ⑤環境整備
- ・新型コロナウイルスへの各種対策を迅速に行った。(アクリル板設置・検温・マスクの徹底・消毒)

- ⑥施設整備
- ・前年度の反省を踏まえ、除雪用トラクターなどの整備を行った。
 - ・日ごろから設備を点検し、故障箇所等無いように努めた。
- ⑦その他(特筆すべき事項)
- ・地域貢献の一環として、地域の美化活動を定期的に行った。(4月～10月)
 - ・市ヶ崎区の清掃活動に参加した。(7月、10月の2回)
 - ・コロナ禍ではあるが、市ヶ崎区の集い(10月)にも参加した。

前年度実績及び評価

令和4年度(2022年度) 事業報告書

事業所 陽だまり

1:目指す姿 どのような事業所を目指すのか。 利用してよかったと思える地域の拠点事業所になろう	目標数値	令和4年度の振り返り(取り組み実績)
①法人本部事務局体制の充実 ・新体制の法人本部事務局の設置に向けて事業所体制を見直ししていく	通年	・本部とスムーズに連絡調整を行った。
②職員体制の再構築 ・適正な人員配置に向けて、本部事務局と連携して人員検証を図る ・法人体制の職務分掌と連動して、事業所における業務分掌の見直しを図る	通年	・利用者数に対しては人員配置を行った。夜勤時の給食業務軽減のためヨソナイを導入した。 ・正職・非常勤の別なく全職員が役割を分担することで施設整備や行事の活性化を図った。
③財政基盤の強化(経営数値) ・新規利用者確保による経営基盤の安定化を目指す ・近隣地域の利用者への啓蒙、声掛け(パンフレット配布)	目標 20人 通年	・3月末の登録者は17人であった。引き続き利用者確保に努めていく。
④経営理念の明確化 ・職員がたかしま会理念を理解し、朝礼時に「たかしま会理念」を唱和する	通年 月1回	・月1回の職員会議時に欠かさず実施した。
⑤効率的・効果的な事務規律の確立 ・法人の事務処理の統一化と合わせ、適正な事務処理を行う	通年	・園長および本部事務局と連携しつつ、事務の適正処理に努めた。
⑥トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実 (人材育成) 1)職員のスキルアップ ・職員研修 (全体研修) ・認知症理解、高齢者虐待、感染症、リスクマネジメント、人権(法定研修を含む)の実施 2)職員の資格取得に向けての支援 (OW更新、認知症実践者、計画作成者研修) 支援予定人数	目標 全職員 人 目標 1人	・職員会議の中で、リスクマネージメントおよび感染症研修を行った。 ・認知症実践者研修・管理者研修に参加する他事業所の職員に対し情報提供等の協力を行った。 ・認知症基礎研修を1人受講した。
⑦情報収集体制の強化 ・市内の事業所との連携を強化 小規模多機能型居宅介護事業所および居宅介護支援事業所との情報交換会・勉強会に定期的に参加する	目標 4回/年	・外部研修には主にオンライン形式で参加した。
⑧サービスの質の向上 (利用者への支援) ・居宅サービス計画書および小規模多機能型居宅介護サービス計画書の作成(定期見直し) ・虐待防止への取り組み(高島市主催の各種研修への参加、チャットリストを活用) ・施設行事の見直し 屋外での活動を増やすなど、コロナ禍でも利用者が楽しめる内容を工夫する ・機能回復訓練等の実施 ラジオ体操に限らず、「高島あしたの体操」など運動メニューを取り入れ、ADLの維持・向上を図る ・体験利用の受け入れ(無料) 体験利用(無料)を提案し、施設を知ってもらう	目標 随時 回/年 目標 4回/年 目標 1回/月 毎日 随時	・計画書についてはサービス内容等の変更の際に適時見直しを行った。 ・虐待防止研修を2人受講した。 ・農園作業、ビンゴゲーム、夏祭りなどを施設内行事で開催した。また、ドライブなどは季節・天候に配慮して実施した。 ・昼食前にラジオ体操等身体を動かす機会を設け、体力の維持向上を目指して取り組んだ。

当年度活動方針と事業の進め方

<p>⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災マニュアル・防疫マニュアルの見直し 既存のマニュアルを見直し、職員や利用者へ周知徹底を図る 避難訓練の実施 避難訓練、消火訓練を地区の方を交えて実施する 	<p>目標</p> <p>2 回/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新たに災害時個別避難計画と運動した防災マニュアルの作成について検討した。 新型コロナウイルス感染症により地域の方との合同での訓練は行わず、職員のみで行った。 												
<p>⑩老人福祉施設と障害者福祉施設の併設の強みを活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢、障害者相談機能の充実 たかしま会のサービスマ利用の高齢、障害者相談機能を持つ 	<p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> パンフレット、相談会のチラシを作成し、アビールを図った。 												
<p>⑪地域における公益的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域会議への参加・協力 地区の清掃活動参加 地域美化活動 第三者委員会等への情報提供 	<p>地区の要請に応じて職員が参加する</p> <p>地区の清掃活動に職員が出役する</p> <p>4月～10月の期間で毎月美化活動を実施する</p> <p>苦情案件はもろん業務運行上の課題を提出しサービスの向上に努める</p> <table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>要請時</td> <td>回/年</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td>回/年</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>7</td> <td>回/年</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td>回/年</td> </tr> </table>	目標	要請時	回/年	2	2	回/年	7	7	回/年	2	2	回/年	<ul style="list-style-type: none"> 浜分区の見守り隊会議に3度参加した。 市ヶ崎区清掃活動(7月 10月)に2度参加した。 7回活動を実施し、施設の美化に努めた。
目標	要請時	回/年												
2	2	回/年												
7	7	回/年												
2	2	回/年												
<p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人の指針に基づき、安全な職場環境の整備を行う。 	<p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 破損箇所については速滞なく修繕を行った。 												
<p>⑬法人のブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> 自家製野菜のマニユー作り 	<p>随時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームページのブログにて、行事と合わせて公表した。(雑いも、玉ねぎ収穫など) 												
<p>⑭広報活動の充実(情報発信の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページや広報誌の内容の充実 法人本部と連携しホームページや広報誌の充実を図る(広報誌) ホームページ パンフレットの配置 病院、地域包括支援センターへの配布および市ヶ崎、浜分、金融機関などに設置をお願いする 	<table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>3</td> <td>回/年</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>随時</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>随時</td> <td></td> </tr> </table>	目標	3	回/年	目標	随時		目標	随時		<ul style="list-style-type: none"> 広報誌は4月、8月、12月の3回発行した。 ホームページは毎月行事ごとに更新した。 包括に限らず高島市民病院等へ設置した。同様に今津病院、スキノ病院へも配布をお願いした。 			
目標	3	回/年												
目標	随時													
目標	随時													
<p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当者会議の効率化 会議の運営 新型コロナウイルスへの対応としても担当者会議のIT化 感染対策として各種会議への参加をZOOM等WEBにて参加する 	<p>通年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 担当者会議については時に応じて対面・書面議決のいずれかにて実施した。 各種会議等はオンラインにて参加した。 												

当年度活動方針と事業の進め方

令和4年度(2022年度) 事業報告書

①契約者数及び利用実績

●契約者数
施設入所支援

	定員	契約解除者	新規契約者数	今年度契約者数	摘要
2020年	46人	3人	3人	46人	男性27人 女性19人
2021年	46人	1人	1人	46人	男性28人 女性18人
2022年	46人	2人	2人	46人	男性27人 女性19人

短期入所

	今年度未登録者数	今年度未実利用者数
2020年	65人	21人
2021年	68人	18人
2022年	62人	15人

生活介護

	定員	契約解除者	新規契約者数	今年度契約者数	摘要
2020年	50人	2人	3人	56人	入所者46人 通所者10人
2021年	50人	1人	4人	59人	入所者46人 通所者13人
2022年	50人	3人	3人	59人	入所者46人 通所者13人

●障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計	平均区分
2020年	0人	0人	0人	3人	12人	31人	46人	5.61
2021年	0人	0人	0人	3人	10人	33人	46人	5.65
2022年	0人	0人	0人	2人	11人	33人	46人	5.67

前年度実績及び評価

●利用実績

【施設入所支援】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年	延べ利用者数 1,363	1,407	1,367	1,389	1,390	1,363	1,426	1,380	1,418	1,418	1,288	1,426	16,635人
	平均利用者数 45.4	45.4	45.6	44.8	44.8	45.4	46.0	46.0	45.7	45.7	46.0	46.0	45.6人/日
2021年	延べ利用者数 1,343	1,365	1,350	1,426	1,421	1,380	1,422	1,380	1,393	1,397	1,288	1,426	16,591人
	平均利用者数 44.8	44.0	45.0	46.0	45.8	46.0	45.9	46.0	44.9	45.1	46.0	46.0	46.0人/日
2022年	延べ利用者数 1,380	1,411	1,336	1,409	1,395	1,380	1,426	1,380	1,424	1,404	1,258	1,361	16,564人
	平均利用者数 46.0	47.0	44.5	47.0	45.0	44.5	46.0	44.5	45.9	45.3	44.9	43.9	45.2人/日

【生活介護】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年	開所日 22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269日
	延べ利用者数 1,169	1,145	1,174	1,198	1,173	1,139	1,243	1,170	1,215	1,215	1,060	1,219	14,120人
	平均利用者数 53.1	49.8	53.4	52.1	51.0	51.8	54.0	53.2	52.8	52.8	53.0	53.0	52.5人/日
2021年	開所日 22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269日
	延べ利用者数 1,173	1,201	1,206	1,242	1,224	1,210	1,255	1,201	1,273	1,278	1,082	1,236	14,581人
	平均利用者数 53.3	52.2	54.8	54.0	53.2	55.0	54.6	54.6	55.3	55.6	54.1	53.7	54.2人/日
2022年	開所日 22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269日
	延べ利用者数 1,222	1,240	1,191	1,247	1,227	1,173	1,231	1,172	1,230	1,206	1,040	1,203	14,382人
	平均利用者数 55.5	53.9	54.1	54.2	53.3	53.3	53.5	53.3	53.5	52.4	52.0	52.3	53.4人/日

【短期入所】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年	延べ利用者数	151	140	129	139	115	115	153	132	134	134	134	134	1,610人
	平均利用者数	5.0	4.5	4.3	4.5	3.7	3.8	4.9	4.4	4.3	4.3	4.8	4.3	4.4人/日
2021年	延べ利用者数	126	137	147	125	85	106	104	106	135	133	95	87	1,386人
	平均利用者数	4.2	4.4	4.9	4.0	2.7	3.5	3.4	3.5	4.4	4.3	3.4	2.8	4.0人/日
2022年	延べ利用者数	149	159	167	177	151	123	91	100	65	66	109	149	1,506人
	平均利用者数	5.0	5.1	5.6	5.7	4.9	4.1	2.9	3.3	2.1	2.1	3.9	4.8	4.1人/日

【日中一時】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年	延べ利用者数	110	108	127	128	107	121	104	92	97	110	110	110	1,324人
	平均利用者数	3.7	3.5	4.2	4.1	3.5	4.0	3.4	3.1	3.1	3.5	3.9	3.5	3.6人/日
2021年	延べ利用者数	90	109	108	108	80	53	110	105	96	91	93	30	1,073人
	平均利用者数	3.0	3.5	3.6	3.5	2.6	1.8	3.5	3.5	3.1	2.9	3.3	1.0	3.1人/日
2022年	延べ利用者数	85	85	93	86	83	85	86	104	82	79	59	65	992人
	平均利用者数	2.8	2.7	3.1	2.8	2.7	2.8	2.8	3.5	2.6	2.5	2.1	2.1	2.7人/日

前年度実績及び評価

②経営状況

施設入所支援事業総額 (円)		生活介護支援事業総額 (円)	
2020年	2021年	2020年	2021年
サービス活動収益	119,427,501	サービス活動収益	192,242,217
人件費	69,393,536	人件費	116,602,166
当期活動増減差額	20,336,491	当期活動増減差額	41,423,448
2021年	125,745,485	2021年	204,222,400
人件費	71,342,796	人件費	121,156,293
当期活動増減差額	23,371,609	当期活動増減差額	48,444,517
2022年	122,347,523	2022年	212,673,526
人件費	72,418,815	人件費	121,837,007
当期活動増減差額	20,869,162	当期活動増減差額	57,239,422

短期入所支援事業総額 (円)		日中一時支援事業総額 (円)	
2020年	2021年	2020年	2021年
サービス活動収益	13,092,622	サービス活動収益	3,935,065
人件費	6,255,163	人件費	2,653,705
当期活動増減差額	4,772,160	当期活動増減差額	683,986
2021年	13,114,228	2021年	4,433,850
人件費	6,371,443	人件費	2,703,035
当期活動増減差額	4,521,154	当期活動増減差額	1,116,508
2022年	14,535,982	2022年	4,336,740
人件費	6,544,103	人件費	2,776,285
当期活動増減差額	5,825,138	当期活動増減差額	927,903

①契約者数・利用実績について

【施設入所支援】7月と3月で計2人の死亡があり、その補充は、長期に渡る短期入所2人を受け入れ、定員46人を充足した。死亡の原因は、老衰と持病の悪化であった。入院加療を受けた人は4人で、延べ入院日数は128日であった。

【生活介護】施設入所46人と在宅からの通所者10人と長期に渡る短期入所者3人の計59人を受け入れた。

【短期入所】新型コロナウイルス感染症の終息の兆しが見えない中ではあったが、在宅障がい者等を介護している家族のレスパイト的な機能や利用者本人の生活リズムを整えるうえで必要なサービスと考え、感染予防対策を講じながら受け入れを行った。その結果、新規契約者は3人で、延べ1,506人の利用があった。

【日中一時支援】短期入所事業と同様に受け入れを行い、延べ92人の利用があった。

②経営状況について

【施設入所支援】9月末まで介護給付費収入の2.6%の福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金を受け、128日間の入院があったことや約1カ月半定員を充足できなかったこと等により、サービス活動収益計は、3,397,962円の減収となった。

【生活介護】9月末まで利用人数が安定し稼働率が上がったことと11%の福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金を受けたことにより、サービス活動収益計は、8,451,126円の増収となった。

【短期入所】延べ利用者数が増えたことと2.6%の福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金を受けたことにより、サービス活動収益計は、1,421,754円の増収となった。

【日中一時支援】延べ利用者数が増えたことによりサービス活動収益計は、97,110円の減収となった。

③支援状況

・12月に利用者・職員共に新型コロナウイルス感染症のワクチン接種4回目を終えた。

・6月に精神科の受診先を嶺南こころの病院から近江今津駅前メンタルクリニックに変更し、往診で診察を受けることで病院に向く負担が軽減された。

・7月より訪問看護ステーションひよりと契約を締結し、理学療法士の派遣を受けるようになった。内容は、利用者個別のリハビリや職員向けに介護技術を上げる研修等を行うことで、職員の介護負担の軽減に繋がった。

・利用者の加齢に伴い咀嚼機能の低下や嚥嚥、歯周病等の疾病予防と改善を目的に、今年度も歯科医や歯科衛生士から職員が口腔ケアに係る技術的指導を受け、利用者の口腔ケアの強化に努めた。また、歯科受診についても医療機関と連携のもと積極的な取り組みを行い、治療が進んだ。

・事故報告件数については、転倒による骨折が1件あった。現在は完治し普段の生活に支障はない。

④環境整備

・デイサービスセンター藤の立ち上げに向けてパンフレットを作成し、新規職員の採用と利用者への確保に向けて取り組んだ。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため保護者の協力を得ながら、帰省・面会・外出等を自粛してきたが、9月に国から示された「withコロナの新たな段階」の移行指針が示されたことをもって、状況に応じながら制限を緩和し、年末頃から帰省を再開した。

・行事については、ふじみ祭りは規模を縮小したり、YouTube配信をする等感染拡大の予防策を講じて実施した。それ以外は、外出を避ける案内で行う行事に替えて実施した。

・職員対象に新型コロナウイルス感染症の運液によるPCR検査を6月・7月・1月に実施した。結果は何れも全員が陰性であった。

・道路交通法の改正に伴い10月よりアルコールチェックが義務化され、公用車の運転前後に酒気帯びの有無を確認し、安全意識を高めた。

⑤施設整備

・6月に令和4年度民間心身障害者社会福祉施設整備費補助金の交付内示を受け、9月5日に指名競争入札を行い、高島鋳建株式会社とデイサービスセンター藤新築工事請負契約を締結しその後着工した。資材の入荷遅れ等により、工期を延長し、5月末完成予定となった。

・既存の大型洗濯機が経年劣化により買い替えが必要となり、6月に大型洗濯機1台を新規購入した。

・厨房の移動式シンクが経年劣化により使用できなくなり、新たに2台とトライヤーを購入した。

・河本文教福祉振興会より冷蔵庫1台の寄贈を受けた。

・今年度計画していた水路嵩上げ改修工事は、12月に業者選定を行い工事に着手し、3月に工事完了した。

⑥その他(特筆すべき事項)

・藤美寮所属の職員が50人を超えることから、産業医と衛生管理者を選任し、1月1回衛生管理委員会を開催し、職員の健康管理や職場環境の安全維持管理に努めた。また、産業医による生活習慣病健診の事後指導を受けた。

・短期入所事業と日中一時支援事業については、高島市内に同サービスを提供する事業が増えたが、入所施設としての役割等を發揮し、質の高いサービスを提供することで利用者への確保に努めた。

・デイサービスセンター藤の立上げに向けて、生活介護通所者の確保と看護師や理学療法士等、職員の確保を試みたが、充足出来なかった。

・課題に向けて、5つ(地域貢献事業、新規事業検討、魅力的な職場づくり、災害・感染症対策、サービスの質の向上)のプロジェクトチームを立上げ、課題解決に向けて取り組んだ。

・保育実習の学生8人受け入れを行い、学校との連携を図った。また、障害者支援施設の概要と利用者支援の魅力を発信した。

前年度実績及び
評価

令和4年度(2022年度) 事業報告書

事業所 藤美寮

<p>1: 目指す姿 入所施設の強みを活かし、利用者や地域で暮らす方一人ひとりの豊かな生活の実現に向けて事業を展開していく</p>	<p>目標数値</p>	<p>令和4年度の振り返り(取り組み実績)</p>
<p>①法人本部事務局体制の充実 : 法人全体の機能充実に向けて具体的に取り組む。 ・法人本部との連携強化</p>	<p>目標 通年</p>	<p>・随時本部と連携しながら取り組んだ。</p>
<p>②職員体制の再構築 : 法人全体の適正な人員配置を検討する。 ・法人本部との連携強化 ・適切な人員配置の為の採用 ・デイサービスセンター藤の立ち上げに向けた人材確保と体制整備</p>	<p>目標 通年 3人 目標 8人</p>	<p>・法人本部と連携し来年度に向けて職員募集をした。 実績 3人/年 ・新規職員3人を採用し、職員配置は、1.7対1人となった。 実績 12人 ・新規採用5人と法人内の異動により確保した。</p>
<p>③財政基盤の強化(経営数値) : 新規利用者の確保による障害福祉サービス等事業収入の増額を目指す。 ・生活介護通所者の新規利用者の確保(養護学校や相談事業と連携をし新規利用者の確保と地域へのアウトリーチ) (新規事業時) ・短期入所や日中一時の新規利用者確保(養護学校・相談事業所・訪問看護ステーション等の連携による市内利用者の掘り出しをし、契約人数を増やしていく) ・短期入所の長期利用者の確保 ・生活介護定員増に向けた取り組み ・新規事業に向けた人材確保と体制整備</p>	<p>目標 3人 目標 20人 目標 各3人 目標 2人</p>	<p>令和4年度の民間心身障害児者社会福祉施設整備費補助金について、令和4年9月7日付けで交付決定を受けた。下半期は、工事の進捗管理をしながら、新規事業の立上げに向けて準備をした。 実績 3人 ・短期入所事業の長期利用者3人確保することで、収入の増収に繋がった。 実績 14人 ・現在藤美寮の生活介護通所者14人をデイサービスセンターに移行する予定である。在宅からの通所者の募集については、開所後に行っていく。 実績 4人 ・新型コロナウイルス感染症の影響で関係機関に訪問することは控えたため、新規利用者確保の目標は下回った。 実績 3人 ・今年度月31日支給決定を受けている利用者3人の支援を行った。</p>
<p>④経営理念の明確化 : 全職員が理念・基本方針のもと行動する。 ・法人本部との連携強化 ・職員朝礼等で理念の唱和をする</p>	<p>目標 通年 目標 通年</p>	<p>・法人理念の理解を深めるために、研修の場を設け理解を深めた。 ・職員会議で理念・倫理綱領・行動指針の唱和を実施し、職業倫理意識を高めた。</p>
<p>⑤効果的・効果的な事務規律の確立 ・事業所内の事務の見直しと担当割の検討・実施</p>	<p>目標 5月末 完了</p>	<p>・前年度の事務体制を見直し、業務量を考え職員配置の改善や事務処理の簡略化を図った。</p>

当年度活動方針と事業の進め方

⑥トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実

【人材育成】

・職員のスキルアップ

・事例研究(ケーススタディ)を通して「ケア・支援の具体的な実践方法」を各チーム別に学び実践する(案内で取り組みを発表する機会を設ける)

・発達障害支援者養成研修に職員を派遣

・滋養発達支援センターからコンサルテーションの導入により支援力の向上

・職員意識改革に向けた研修の実施

・権利擁護意識の強化

・外部研修の受講

・内部研修の実施

・「虐待の芽チエックリスト」等虐待防止に対する取り組みの見直しと更なる意識の向上

・職員の資格取得に向けた支援

・資格取得に向けたサポート体制(社会福祉士・介護福祉士・ケアマネ等)

・「J-データの養成。

・専門知識の指導者の育成(専門的な取り組みをしている事業所に派遣し技術の習得)

⑦情報収集の強化

・新たな事業の立上げに向けた対象利用者の発掘と潜在的なニーズと課題の把握

・他機関との連携強化

(高島市役所・市内の相談事業所・働き暮らし応援センター・養護学校・医療機関・訪問看護ステーション等)

⑧サービスの質の向上

・意思決定支援の強化

・利用者の個別化支援の提供(状態像の把握とニーズに基づき、専門性を活かした支援)

・利用者個々の身体の状況に応じた日中活動の提供(日常生活動作の維持・向上)

・権利擁護の取り組み強化

(第三者委員会議)

・虐待防止委員会の強化

(会議)

・利用者のプライバシー、個人情報保護を保護し、信頼性の高いサービスの提供

・生きがい・やりがいの意識の向上(利用者向け)

・活動時間の確保と内容の充実

・自主製品(利用者の商品化)のブランド化に向けた検討

・利用者の社会参加の促進(コロナ禍の状況を踏まえ、実施内容の検討と実施)

・マキノ町内の清掃とエコオスター区間清掃管理等

・医療との連携

・嘱託医、協力病院等との連携強化

・高齢・重心対応型事業に伴う医療職の充実

※地域移行に向けた取り組み

・高島市障がい福祉計画(第6期)に令和3年度末時点で施設入所者の6%以上の人数を地域に移行する目標設定有

・今年度は、生活支援員を5グループに分け、「自閉症支援」と「高齢者支援」のそれぞれが分野に別して研究・研修し、学びの場を設け支援スキルの向上に取り組んだ。

発表	5	回/年	実績	5	回/年
目標	5	回/年	実績	12	回/年
目標	3	回/年	実績	3	回/年
目標	1	回/年	実績	1	回/年

全職員	1	回/年以上	今年度は、全職員が年1回、人権擁護研修に参加する機会を設けた。
目標	3	回/年以上	ZOOM研修やオンラインで動画を利用し、多くの職員に受講させ知識を高めた。
目標	1	回/月	虐待防止委員会を定期的に関催し、スタッフの具直しや取り組みやすさ等の改善を図った。
目標	1	回/年	一年をかねて虐待の芽チエックを完成させた。
目標	1	回/年	積極的な受講に向けて声掛けし、勤務時間等の配慮をした。今年度も数名の職員がケアマネ取得に向けて取り組み1名が合格した。

目標	2	人	実績	1	人/年
目標	2	人	実績	1	人/年

・「デイサービスセンター藤ノ新規事業立ち上げに向けて、対象となる利用者の発掘と事務的な準備等に取り組んだ。

・職員を5つのグループに分け、ケアを通して学ぶ場(事例検討)を行い、定期的に発表の場を設けることで、互いに刺激し合い現場で役に立つ研修が行えた。また、発達障害者支援センターのコンサルテーションも受け、支援スキルの向上に努めた。

・今年度は、更に利用者個々の障がい特性に応じた個別支援を目指し、日課の見直しを行った。その中で、障がい特性に応じた活動内容や活動時間を提示し、安定した生活ができるように努めた。

・4月と5月に虐待防止に関する内容でDVD研修を実施した。

・職員は、毎月の虐待の芽チエックリスト、想定ヒヤリ等の取り組みをもとに、定期的に虐待防止委員会を開催し、人権意識を高めた。

・4月から若年層の利用者に対して、月曜日から金曜日の週5日間、「お仕事」という位置づけの中で活動時間を確保し進捗に繋げることで精神安定を図った。

・未実施。来年度工夫を凝らし取り組んでいく。

・継続してエコオスターの清掃区間の草刈りを利用者と一緒に行った。

・マキノ第一、第二サニーハイツ・マキノの団地周辺の草刈りと植木等の剪定を利用者と一緒に行った。

・1月1回、内科嘱託医による住診を受け、利用者の養病の早期発見、早期予防に努めた。また、林産科医療の協力のもと利用者との口腔衛生に努め健康の維持増進を図った。

・下肢機能の低下した利用者には、7月より週1回理学療法士の指導のもとリハビリを実施し、残存能力の維持を図った。また、職員向けの研修も実施した。

・高島市障がい福祉計画(第6期)の進捗状況を共有しながら取り組んだが、目標達成には至らなかった。

目標	完了	R4年6月
目標	完了	R4年度中
目標	3	名

・高島市障がい福祉計画(第6期)に令和3年度末時点で施設入所者の6%以上の人数を地域に移行する目標設定有

<p>⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の障害特性に応じた生活環境の整備 ・衛生的な環境と感染予防対策(新型コロナウイルス等)の徹底 ・あらゆるリスクに備えた体制整備の強化 (第三者委員会・事故防止委員会・ヒヤリハット・事故報告・想定ヒヤリの取り組み強化と課題の抽出、対策の検討) ・消防訓練・不審者対応訓練等の実施 ・マキノ駅西自治会との協力体制の強化(年1回防災訓練等の実施) ・既存のマニュアルの見直しと職員や利用者へ周知の徹底 ・災害時、福祉避難所運営に向けた取り組みと運営マニュアルの見直し (福祉避難所への被災者受け入れを想定した訓練の実施) ・BOP(事業継続計画)の作成 <p>⑩老人福祉施設と障害福祉施設の併設の強味を活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤波園入所対象者の選定と移行に向けての取り組み ・高齢知的障がい者の現状と課題を行政に伝え改善に向けて働き掛ける ・藤波園の利用者に陶芸教室に誘う 	<p>目標</p> <table border="1"> <tr><td>R4年12月</td><td>完了</td></tr> <tr><td>通年</td><td></td></tr> </table> <p>実績</p> <table border="1"> <tr><td>3</td><td>回/年</td></tr> <tr><td>R4年10月</td><td>完了</td></tr> <tr><td>R4年6月</td><td>完了</td></tr> <tr><td>R4年10月</td><td>完了</td></tr> </table> <p>・男女機の間仕切りドアを施錠し、男女の行き来を止めた。この事により、互いの刺激がなくなり、利用者は落ち着いて生活ができていた。また、その事により感染症が施設全体に蔓延することもなかった。</p> <p>・想定ヒヤリや事故報告、ヒヤリハット報告等の取り組みを継続して行い、事故防止委員会や職員会議で対策等を検討し再発防止に努めた。</p> <p>・マキノ駅西自治会活動の規模縮小により、実施できなかった。</p> <p>・既存のマニュアルの見直しをした。今後は、高島市から求められている避難確保計画の作成に向けて取り組んでいく。</p> <p>・プロジェクトチームを中心に準備を進めたが、完成は次年度になる。</p>	R4年12月	完了	通年		3	回/年	R4年10月	完了	R4年6月	完了	R4年10月	完了
R4年12月	完了												
通年													
3	回/年												
R4年10月	完了												
R4年6月	完了												
R4年10月	完了												
<p>⑪地域における公益的な取り組み(共生社会を見据えた取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流事業「ふじみ祭祭り」の開催 ・陶芸教室の開催(地域の方やグループホームの利用者、その他法人事業所の利用者を対象) ・本部との連携のもと、「行こー」事業を見直し、利用者の拡大と使いやすさシステムに調整 ・法人本部との連携のもと、地域福祉ニーズ調査の実施 ・地域生活宿泊体験支援事業の場の提供 <p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人本部との連携強化 <p>⑬法人のブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い事業所 ・自主製品(利用者の作品等)のブランド化 <p>⑭広報活動の充実(情報発信の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回、ホームページの更新をし、事業所の取り組み等の発信 ・事業所のパンフレットの再制作 ・ボランティア募集の仕組みの見直しと運用 ・中学生向けのボランティア活動の啓発 <p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、帰省の自粛や面会制限のあることから、施設での生活を伝える手段を工夫する ・コロナ禍の中、外部研修受講に向けて、WEB環境の整備 	<p>目標</p> <table border="1"> <tr><td>R4年5月</td><td>予定</td></tr> <tr><td>通年</td><td></td></tr> <tr><td>通年</td><td></td></tr> <tr><td>通年</td><td></td></tr> <tr><td>通年</td><td></td></tr> </table> <p>・コロナの影響で2年半ぶりに開催したが、開催時間を午前中のみと短縮し、会場内での食事を禁止し、模擬店で作った物はお土産とするなど感染対策を講じた上で実施した。また、新たな取り組みとして、YouTubeによるライブ配信をした。天候にも恵まれ320人の来場を得ながら地域交流の場となり、障がい者理解を発信できた。</p> <p>・陶芸教室は、地域貢献事業と位置づけ月1回開催し、年間の参加者数は27人であった。</p> <p>・マキノめぐりネットワークやマキノ住民福祉協議会の方の協力を得ながら、地域のニーズを把握し新たな地域貢献事業を検討した。</p> <p>・上半期は、宿泊体験事業を希望する者はいなかった。</p> <p>・月1回衛生管理委員会を開催し、安全な職場環境と衛生に関することを話し、働きやすい職場に努め、その結果を職員会議で周知した。</p> <p>・外部研修は残念ながらWEB研修となりその利点を活用し、多くの職員が受講しスキルの向上を目指した。</p> <p>・定期的に行事等の取り組みを発信した。</p> <p>・11月に活動等を写真に収め、新たなパンフレット作りに取り組んだ。</p> <p>・マニュアルの見直しを行ったが、新型コロナウイルスや感染症の影響により運用する事は出来なかった。</p> <p>・新型コロナウイルスや感染症の影響により、実施できなかった。</p> <p>・ふじみ祭祭りは2年半ぶりに開催し、会場の様子をライブで配信した。</p> <p>・新型コロナウイルスや感染症の状況を見ながら面会や帰省を緩和してきた。</p> <p>・新型コロナウイルスや感染症の影響により、WEBの研修や会議が増えたが、既存の機器で支障なく対応が出来た。</p>	R4年5月	予定	通年		通年		通年		通年			
R4年5月	予定												
通年													
通年													
通年													
通年													

当年度活動方針と事業の進め方

令和4年度(2022年度) 事業報告書

事業所 グループホーム

①契約書数及び利用実績		利用実績		職員数 (人)	
契約書数 (人)		所要日数(日)	延利用者数(人)	2020年	2021年
2020年	23	366	8,251	20	
2021年	24	365	8,444	2021年	21
2022年	24	365	8,617	2022年	22

②訓練等給付費	
年	訓練等給付費 (円)
2020年	54,402,403
2021年	56,353,650
2022年	55,945,319

③経営状況				
共同生活援助事業総額 (円)				
年	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2020年	71,027,959	41,231,223	11,122,074	11,142,311
2021年	71,521,387	43,313,253	8,931,263	8,950,464
2022年	72,559,606	40,703,303	13,656,384	13,840,655

前年度実績及び評価

①契約書数・利用実績について

「羽ばたき」の入居者1人が、1月に疾病により死亡し契約解除となり、在宅利用者1人をその補充としたが、約1ヶ月あまり欠員が出たことで訓練等給付費収入は減収となった。

②訓練等給付費について

利用者の障害支援区分は若干の変更はあったが、障害支援区分や障害特性に応じて世話を配置したことにより、「あとホーム」だったうちの家「高木浜ホーム」においては、令和3年度並みの訓練等給付費収入を維持した。

③経営状況について

高木浜ホームは、定員を4人から5人に増員したことで、訓練等給付費収入は16.9%増収となった。

利用者の状況に応じて手厚い支援体制を目指し、体制の見直しや加算を算定したことで、経営の安定に繋がった。

④生活支援

モニタリングに合わせて個別支援計画の変更を行い、計画に基づいた支援を実施した。
 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止を世話人・利用者呼びかけ、日々の健康観察、手指消毒の徹底、建物内の換気、買い物等の外出の自粛、マスクの着用等、感染予防対策について理解を求め実施したが、1月に「あとホーム」1「箱館ハウス」1「たつちの家」7人のコロナ感染の陽性者を確認した。幸いに何れも軽症であったため自宅療養を行い、10日間の療養期間を終えて普段の生活に戻った。
 ・1月にコロナワクチン4回目の接種を終えた。
 ・コロナ禍で思うように外出ができずストレスを抱えながら生活してきた。その為、世話人の買い物代行やテクノロジーで食事を楽しむ、公園や浜辺を散歩する等工夫をしながら、新しい生活様式の中で生活を継続した。

・加齢に伴い疾病への対応も増え、観察力と介護技術が求められ、更に支援スキルの高い世話人が必要となった。

⑤環境整備(職員充足について)

・障害支援区分の重度化に伴い、世話人の配置が多くなり、基準を勘案しながら支援をしてきた。

・今年度は世話人雇用数19人でスタートし、年度中で3人採用したが、何れも勤務時間が少ないことから、充足出来なかった。引き続き必要人数が確保できるように努める。

⑥施設整備

・脱衣所に暖房器具を設置した。(羽ばたき、箱館ハウス、高木浜ホーム)

・羽ばたき、あとホーム、高木浜ホームで発電機を購入し、停電時等の不測の事態に備えた。

・経年劣化等により、軽微な備品の買い替えが生じているが、何れも予算内で執行した。

⑦その他(施設整備等特筆すべき事項)

・今年度、たつちの家の建設予定地を捜し用地取得を計画していたが、次年度で対応をすることとした。

令和4年度(2022年度) 事業報告書

事業所 **ゲルナーホーム**

1: 目指す姿 それぞれの利用者が望む地域生活がいつまでも継続できる よう体制を整える	目標数値	令和4年度の振り返り(取り組み実績)
① 法人本部事務局体制の充実 :法人全体の機能充実に向けて具体的に取り組む ・法人本部との連携強化	目標 <input type="text" value="通年"/> から	療養寮及び本部と連携をして取り組んだ。
② 職員体制の再構築 :法人全体の適正な人員配置を検討する ・法人本部との連携強化	目標 <input type="text" value="通年"/> から	・雇用している世話人の高齢化が課題であり、ハローワーク高島を通じて求人募集をしたところ、新規に3人採用できた。
③ 財政基盤の強化(経営数値) :「たつちの家」の老朽化に伴い将来的に賃借住宅から法人所有にし、定員も4名から7名に増員することで地域 ニーズに応えると共に更なる経営の安定化を図る ・「たつちの家」移転先建設予定地の選定と建替え ・適切な人員配置 ・利用者の障害支援区分に応じた職員配置の検証	目標 <input type="text" value="R7年度"/> から 目標 <input type="text" value="R7年3月"/> から 目標 <input type="text" value="通年"/> から	・「たつちの家」箱館・ハウスで世話人の常勤職員を配置したこと、福祉専門職配置加算Ⅲを取得し訓練等給付収入の増収を見込んだが、経費も膨らみ、それ程の結果は得られなかった。 ・疾病による入院、死亡、環状の不応等により利用者の入れ替えがあり、空室による減額期間があった。 ・未実施(令和5年中に、移転先建設予定地の選定から購入、また、建築に向けて実施設計業務を委託する) ・利用者の障害支援区分に応じて毎月の勤務者の中で適切な職員配置をした。また、高木洋ホームの利用者の重度高齢化に伴い、夕方時間帯(入浴支援と食事の支度等)を世話人2人体制とし安全に支援ができるようにした。
④ 経営理念の明確化 :全職員が理念・基本方針のもと行動する ・法人本部との連携強化 ・キーパーソン会議等で理念を唱和する	目標 <input type="text" value="通年"/> から 目標 <input type="text" value="通年"/> から	・世話人会議の際には、たかしま会の「理念」「倫理綱領」「行動指針」の唱和をし、職業倫理を確認し浸透させた。 ・ゲルナーホームの管理者とサービス管理責任者の業務分担をし、特にサービス管理責任者は、入居者24人の生活状況の把握に努め、良質なサービス提供が出来るよう世話人と連携を図った。
⑤ 効率的・効果的な事務規律の確立 ・サービス管理責任者の業務の整理	目標 <input type="text" value="R4年4月"/> から	
⑥ トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実 (人材育成) ・キーパーソンのスキルアップ(障がい特性に配慮した支援スキルの習得) ・現行の職員研修に加えて、専門性に特化した研修を実施 (人材確保) ・安定した雇用 ・キーパーソンの高齢化に伴い若者の雇用の促進	目標 <input type="text" value="1"/> 回/年 目標 <input type="text" value="3"/> 人	・療養寮で行う虐待研修や口腔衛生研修を受講し専門知識を高めた。 ・個別のケア会議を実施しながら具体的な支援方法を世話人と一緒に検討した。 ・世話人会議の際に虐待防止研修を実施し、適切な支援に向けて取り組んだ。 ・加入する団体が主催する研修に参加し、世話人間の交流や知識の取得に結び付けた。
⑦ 情報収集の強化 ・キーパーソン会議の定期開催	目標 <input type="text" value="各ホーム4"/> 回/年	・個別支援計画の立案に伴う会議や必要に応じて個別ケア会議を開催し、世話人間の情報の共有を図った。

当年度活動方針と事業の進め方

<p>⑧サービスの質の向上 〈共同生活援助事業への支援〉 ・意思決定支援の充実を図る ・グループホームごとに余暇活動の選択 ・グループホームごと宅配の給食材料以外に好きなメニューを食べる機会の提供 ・利用者に合った適切なサービスの提供 高齢者(70歳以上)の日中活動の場と生活の場の検討 ・重度者と軽度者の住み分け あつこホームと箱庭ハウスの合同支援の検討</p>	<p>目標 1 回/月 1 回/月 R4年度中 まで R4年度中 まで</p>	<p>・モニタリング時に合わせて個別支援計画の変更を行い、計画に基づいた支援を実施した。 ・個別支援計画には、本人や家族の希望を取入れ、意思決定支援に繋いだ。 ・12月に5ホームの利用者が一堂に集まり、クリスマス会を催し親睦を深め楽しんだ。 ・各ホーム毎にアイデアブックや手作りの希望献立を実施した。 ・通所先からの開所日の知らせは、本人の希望で欠かす決めた意思決定を大事にした。 ・1階の掃工房(の定員削減とサービスセンター1階)の事業開始に向けて、通所先の見直しをするため、利用者ご家族向けの説明会を開催した。</p>
<p>⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備 ・あらゆるリスクに備えた体制整備の強化 (第三者委員会・事故防止委員会・ヒヤリハット・事故報告・想定ヒヤリの取り組み強化と課題の抽出、対策の検討) ・消防訓練・不審者対応訓練等の実施 ・防災対策の充実(防災食・発電機等) ・既存のマニュアルの見直しとキーパーや利用者へ周知の徹底</p>	<p>目標 通年 2 回/年 R4年9月 完了 R4年9月 完了</p>	<p>・1月末から2月上旬にかけて発生したコロナ集団感染に対しては、その教訓をもちに感染予防対策の徹底を行い、感染症発生時における事業持続計画を作成した。 ・7月(夜間)、3月(日中)の避難訓練を実施し、災害に対する意識を高めた。 ・防災の日(防災食を喫食し、災害時における状況をイメージした。また、防災食や防災備品の確認と発電機を購入し不測の事態に備えた。</p>
<p>⑩老人福祉施設と障害福祉施設の併設の強味を活かす ・ベンチアツツ施設との連携のもと、見学・体験の機会の提供</p>	<p>目標 R4年10月 からの開始</p>	<p>・未実施。次年度に取り組みを検討していく。 ・積極的な取り組みは無かったが、今後、利用者や世話人・サビ管等が地域に出向きできる活動を捜していく。</p>
<p>⑪地域における公益的な取り組み ・藤美寮との連携強化</p>	<p>通年</p>	<p>・有休取得を推進し、本人の病氣休暇や家族の傷病等による介護休暇を理由に有休取得をし暑い環境にした。</p>
<p>⑫魅力ある職場環境の構築 ・法人本部との連携強化</p>	<p>通年</p>	<p>・次年度に作成するベンチアツツを活用し、地域の対象者に情報を発信する。</p>
<p>⑬法人のブランド化 ・土日の日中支援や夜間支援など充実した定置体制という強みを活かし、重度の人も地域生活ができる体制の維持</p>	<p>通年</p>	<p>・ホームページのリニューアルに向けて取り組んだ。</p>
<p>⑭広報活動の充実(情報発信の強化) ・ホームページを活用し、生活の様子を発信する グループホームのパンフレットの作成</p>	<p>目標 R4年度中 まで R4年度中 まで</p>	<p>・ホームページのリニューアルに向けて取り組んだ。 ・未実施。</p>
<p>⑮先進的な技術やITの取り組み ・WEBサイトの活用 コロナ禍で備前も自費しているため、保護者へ生活の様子を伝えやすくも安心してもらえるよう取り組む</p>	<p>通年</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、帰省や面会を緩和し、家族との関係を保ってきた。 ・コロナ禍で参加型の外部研修には参加がしにくく、WEBでの研修に切り替え受講した。</p>

当年度活動方針と事業の進め方

令和4年度(2022年度) 事業報告書

事業所 藤美相談支援事業所

① 契約者数及び利用実績

契約者数 (人)	実績
2020年	100
2021年	100
2022年	100

	計画数(件)	モニタリング数
2020年	45	278
2021年	60	269
2022年	54	322

② 障害福祉サービス等事業収入

	計画相談支援給付費収入 (円)
2020年	5,961,833
2021年	6,506,891
2022年	7,488,638

	職員数 (人)
2020年	相談員(専従)10、(兼務)01、所長(兼務)10
2021年	相談員(専従)10、(兼務)01、所長(兼務)10
2022年	相談員(専従)10、(専務)01、所長(兼務)10

③ 経営状況

	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2020年	5,957,814	5,492,094	187,597	191,616
2021年	6,506,891	6,237,741	45,704	-1,505,276
2022年	7,536,638	6,685,304	626,696	626,715

① 契約者数・利用実績について
 ・令和3年度末の契約者数は100人であったが、藤美寮の入居者2人、在宅者1人、グループホーム羽ばたきの入居者1人が死亡による契約解除となった。また、藤美寮の入居者1人と在宅2人、グループホーム入居者1人と契約をし、現在の契約者数は100人と前年度と変わりはない。

② 計画相談支援給付費について

・適切に加算取得に向けた支援を行い報酬に結び付け、安定した経営に努めた。
 ・令和4年度に主任相談支援専門員養成研修に職員を派遣し、取得を目指した。今後は、更に相談支援専門員のスキルを上げ、主任相談支援専門員配置加算を得ることで、経営の安定を図っていく。

③ 経営状況について

・利用者の生活実態、ニーズや置かれている状況をアセスメントし、モニタリングに繋げその頻度を上げたことで給付費収入は増収となった。
 ・モニタリング時等においては、サービス提供場面を確認したり、利用者の状況確認や支援内容の調整等きめ細やかに支援する目的でサービス担当者会議等を開催し、関係機関との連携を強化した。また、その支援を報酬の加算として算定した。

④ 支援等について

・発達障がい等の特性に理解がないままに成長し、二次障害として精神疾患を発症したり、家族・事業所の理解がないために支援が滞っているケースが目立つ中、サービス担当者会議や個別ケースを通じて関係機関と連携を図った。
 ・相談支援連絡会を通じて基幹相談支援センターの機能の充実を希望した。
 ・同居の方で近隣に家族等の身内がおらず、調子を崩した場合の支援が難しくなった。また、頼れる人がいないため、度々相談事業所に連絡が入る等、報酬に直結しないケースが多かった。

・地域生活支援拠点等整備において地域生活の継続を目指し、障がい者や家族の緊急事態に対応を図るため、藤美寮と連携をしながら緊急時等相談支援の機能を充実させ実施した。

・度重なるコロナウイルスや家族環境の変化により成年後見制度の導入に至ったケースが2人いた。成年後見制度の導入にあたり、会議・書類の作成の手伝いに時間を要した。

⑤ 環境整備

・サービスセンター隣の建物完成後は、事務所をその建物の2階に設ける為準備をした。

・事務的な業務を担当する相談員と専務の相談員に業務を分担したことで、スムーズに業務遂行が出来るようになった。

⑥ その他(特筆すべき事項)

・サービス等利用計画については、高島圏域内でもセルフプランの方が32人いる中、相談支援体制の充実が課題となっている。藤美相談支援事業所においてもそのニーズに応えられるよう、令和5年度に向けて体制整備を検討していく。

・相談員1人が主任相談支援専門員養成研修を受講した。

前年度実績及び評価

令和4年度(2022年度) 事業報告書

事業所 藤美相談支援事業所

	目標数値							
1: 目指す姿								
他の事業所との連携のもと、本人が望む生活が継続できるよう計画や調整を行う								
① 法人本部事務局体制の充実 :法人全体の機能充実に向けて具体的に取り組む ・法人本部との連携強化	目標 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td style="width: 50px;">通年</td><td style="width: 50px;">から</td></tr> </table>	通年	から	・その都度、藤美寮及び法人本部と連携をした。 ・次年度の体制に向けて検討し、法人本部と連携をした。				
通年	から							
② 職員体制の再構築 :法人全体の適正な人員配置の検討 ・法人本部との連携強化 ・専従と兼務との人員配置と業務の検証	目標 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td style="width: 50px;">通年</td><td style="width: 50px;">から</td></tr> <tr><td style="width: 50px;">通年</td><td style="width: 50px;">から</td></tr> </table>	通年	から	通年	から	・7月に受審した実地指導の指導事項に基づき、相談支援専門員の業務分担を見直し、藤美寮の生活支援員を兼務している相談支援専門員は、藤美寮外のサービス提供者を担当することとした。 ・モニタリング件数や一般相談件数の増加に伴い、非常勤職員の出動日数を検討しながら対応をした。		
通年	から							
通年	から							
③ 財政基礎の強化(経営数値) :経営の安定を図る ・更なる加算の取得により収支の黒字化 ・セルフプランの人等、新規利用契約者の確保 ・単独採算できるよう行政に訴える	目標 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td style="width: 50px;">通年</td><td style="width: 50px;">から</td></tr> <tr><td style="width: 50px;">3</td><td style="width: 50px;">人/年</td></tr> <tr><td style="width: 50px;">通年</td><td style="width: 50px;">から</td></tr> </table>	通年	から	3	人/年	通年	から	・医療的ケア等コーディネーター養成研修と主任相談支援専門員研修に相談員を派遣した。その事により、今後は加算を取り更なる増収を目指していく。 ・実績 4 人/年 ・今年度4人の方と新規契約を締結した。 ・藤美寮の個別支援会議や毎月開催の部署会議等に参画し、利用者の状態把握に努めると共に計画の見直しに反映しながら、できる限りの加算の取得に努めた。
通年	から							
3	人/年							
通年	から							
④ 経営理念の明確化 :全職員が理念・基本方針のもと行動する ・法人本部との連携強化 ・職員朝礼等で理念の唱和	目標 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td style="width: 50px;">通年</td><td style="width: 50px;">から</td></tr> <tr><td style="width: 50px;">通年</td><td style="width: 50px;">から</td></tr> <tr><td style="width: 50px;">通年</td><td style="width: 50px;">から</td></tr> </table>	通年	から	通年	から	通年	から	法人理念の理解を深めるために藤美寮と一緒に研修した。 ・職員会議時に理念、倫理綱領、行動指針の唱和を実施した。
通年	から							
通年	から							
通年	から							
⑤ 効率的・効果的な事務規律の確立 ・業務の整理と適切な役割分担	通年 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td style="width: 50px;">通年</td><td style="width: 50px;">から</td></tr> </table>	通年	から	4月に発行した事務分掌表に基づいて業務遂行を行った。 ・7月に受審した高島市による実地指導では、報酬の算定、計画作成及びモニタリングの実施、会議等の開催、それに伴う会議録、書類の整理等については、高評価を得た。				
通年	から							
⑥ トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実 <人材育成> ・事業の継続に必要な体制づくり(相談支援専門員研修) ・スキルアップのため各種研修への参加	目標 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td style="width: 50px;">1</td><td style="width: 50px;">人/年</td></tr> <tr><td style="width: 50px;">1</td><td style="width: 50px;">人/年</td></tr> </table>	1	人/年	1	人/年	・4～5年先を見据えた体制を考えながら、相談支援専門員の新規採用を検討した。 ・主任相談支援専門員研修に相談員1人を派遣した。		
1	人/年							
1	人/年							
⑦ 情報収集体制の強化 ・多職種連携の強化 ・他事業所の相談員や行政等の関係機関と連携の強化	通年 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td style="width: 50px;">通年</td><td style="width: 50px;">から</td></tr> <tr><td style="width: 50px;">通年</td><td style="width: 50px;">から</td></tr> </table>	通年	から	通年	から	・利用者の個別ケアにあたっては、高島市役所、地域包括、コンパス、医療機関、各事業所等と連携を強化し、支援と計画に反映させた。 ・2ヶ月に1回開催される相談支援連絡会において困難ケースを周知し、基幹相談支援センターの機能の充実を伝えた。		
通年	から							
通年	から							

当年度活動方針と事業の進め方

<p>当年度活動方針と事業の進め方</p>	<p>⑧サービスの質の向上</p> <p>・本人に合ったプラン作成</p> <p>・本人に必要なサービスを見極めプランに落とし</p> <p>・関係機関との連携の強化</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>通年</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	通年			通年			<p>・利用者や家族のニーズを聴き取り、常に中立的な立場で計画立案し支援に繋いだ。</p> <p>・支援困難ケースは、計画相談連絡会で発信し、助言を得るなど関係機関との連携を継続し取り組んだ。</p> <p>・2ヶ月に1回、基幹相談支援センターより訪問を受け、課題を整理しながら地域課題についてコンパスに発信した。</p>
	通年								
	通年								
	<p>⑨安全で衛生的かつ快適な環境の整備</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策の徹底</p> <p>・あらゆるリスクに備えた体制整備の強化</p> <p>(第三者委員会・事故防止委員会・ヒヤリハット・事故報告・想定外への対応強化と課題の抽出、対策の検討)</p> <p>・避難行動要支援者に対する災害時の相談業務の強化</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>通年</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	通年			通年			<p>・新型コロナウイルス感染症に対する感染対策は常に意識しながら業務を実施した。</p> <p>・モニタリング時は、利用者に対する人権侵害が無い等の視点を持ちながら働き取りを行った。</p> <p>・避難行動計画については、対象者4人に対して作成を終えた。避難行動計画の作成にあたっては、民生委員をはじめ関係機関と連携を取りながら計画立案をした。</p>
	通年								
通年									
<p>⑩老人福祉施設と障害福祉施設の併設の強味を生かす</p> <p>・法人の各事業所との連携</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> <td>から</td> <td></td> </tr> </table>	通年	から		<p>・毎月事業所のモニタリングを行い、利用者の状態把握に努めた。</p>				
通年	から								
<p>⑪地域における公益的な取り組み</p> <p>・藤美寮と連携のもと取り組む</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	通年			<p>・地域貢献事業「行こカー」の対象地域の利用者へ情報を提供し、今年度新たに1人がこの事業を利用し、地域生活が継続できた。</p>				
通年									
<p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <p>・法人本部との連携強化</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	通年			<p>・有給休暇の取得に向けて職員に周知をし、有休の消化率を上げた。</p>				
通年									

<p>⑬法人のブランド化</p> <p>・法人内事業所との連携の充実</p> <p>・たかしま会で採用されたロゴマークを名刺や郵便物の封筒に印刷し、法人・事業所をアピール</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	通年			<p>・「サービスセンター」の開設に向けて、関係機関や対象者に事業所を紹介しながら新規利用者の確保に向けて取り組んだ。</p> <p>・たかしま会のロゴマークを名刺や封筒等に使用し、法人をアピールした。</p>			
通年								
<p>⑭広報活動の充実(情報発信の強化)</p> <p>・ホームページを活用し情報の発信</p> <p>・パンフレットの作成</p>	<table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>1</td> <td>回/月</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>8</td> <td>月完成</td> </tr> </table>	目標	1	回/月	目標	8	月完成	<p>・ホームページのリニューアルに向けて、情報提供をした。</p> <p>・パンフレット作成に向けて、デザイナーに原稿依頼をした。</p>
目標	1	回/月						
目標	8	月完成						
<p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <p>・業務の効率を上げるためZOOMなどの活用</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	通年			<p>・研修や会議等は可能な限りZOOMを活用し参加した。</p>			
通年								

令和4年度(2022年度) 事業報告書

事業所 アンソイニ

①契約書数及び利用実績

契約者数 (人)	
2020年	55
2021年	60
2022年	71

利用実績	利用実績	
	所要日数(日)	随時利用者数(人)
2020年	241	2,968
2021年	251	3,390
2022年	264	4,421

職員数 (人)	
2020年	8
2021年	8
2022年	8

②障害福祉サービス等事業収入

	受託事業収入(公費) (円)	受託事業収入(一般) (円)
2020年	25,420,334	618,195
2021年	29,049,175	733,545
2022年	36,882,518	952,352

前年度実績及び評価

③経営状況

	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2020年	25,420,334	15,975,652	3,460,964	3,493,197
2021年	29,891,390	15,709,047	8,011,387	8,138,767
2022年	37,918,870	18,118,984	12,770,487	12,743,837

①契約者数・利用実績について

- 契約状況は、新規契約者が12人、契約解除者が1人で、12月末現在契約者数は71人であった。
- 契約者数のうち11人程は長期間の利用は無いが、毎月の活動予定表を届けたり電話で様子等を尋ねる等関係性を保った。今後は、無理のない範囲でホリデーサポートに誘いかけて利用に結び付けていく。
- 契約解除者1人は、死亡により解除となった。
- 感染対策を講じたがからの通所というwithコロナ社会の「新しい生活様式」にも徐々に慣れてきたことで、一人あたりの利用頻度は増えた。
- 以前から通所していた人が高齢に伴い利用頻度が少なくなったり、疾病の悪化に伴い入院等をしたことにより、利用者の顔ぶれが変わった。

②受託事業収入について

- 昨年に引き続き通常の開所日プラス月1～2日土曜日に関所日を設けることで、増収に繋がった。

③経営状況について

- 食材料が高騰する中、地域の店も大切にしつつ、献立を工夫する等試行錯誤をして、予算内で利用者を楽しみのある食事提供に努めた。
- ガソリンの高騰と半日利用の利用者が増えたこと、また、送迎範囲が広範囲になったことで、人件費やガソリン代が増額した。
- 出来る限り無駄をなくし経費削減を図った。
- 利用人数に応じて職員配置を考えたが、利用者の障害特性に当日の朝にキャンセルや通所希望が入ること等があり、難しい面があった。

④活動支援

- 新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見ながらボランティアや講師の受入れを行った。
- 利用者のニーズに応じた活動や新たな活動を入れることで、利用人数の増加に繋がった。
- 家族を巻き込んだ利用者間のトラブルがあったが、関係機関の協力を得ながら支援を続けた。
- 施設内で新型コロナウイルス感染症を起こすことなく、一年無事支援を終えた。

⑤環境整備

- コロナ対策として、乗車前の検温・手指消毒・車内の消毒等を実施した。夏季・冬季に施設内の大掃除を実施した。

⑥施設整備

- 経年劣化により、照明器具等に不具合が出たため、電球を取替え高所作業が必要な箇所は、業者に依頼をして修繕を完了した。
- 経年劣化により浴室の水道から水漏れが発生し、業者に修繕を依頼し完了した。

⑦その他(特筆すべき事項)

- 指定管理施設の譲渡に向けて、法人として市に要望を伝え理解を求めた。
- 指定管理期間終了後に向けて、安定した経営方針を検討中である。

令和4年度(2022年度) 事業報告書

事業所 アンソニー

1:目指す姿 ・個別支援計画に基づき適切な支援を行い、地域生活が継続できるようにする	目標数値	令和4年度の振り返り(取り組み実績)
①法人本部事務局体制の充実 :法人全体の機能充実に向けて具体的に取り組む ・法人本部との連携強化	目標 <input type="text" value="通年"/>	:法人本部や他事業所との連携を密にしながら、諸般に於いて取り組んだ。
②職員体制の再構築 :法人全体の適正な人員配置を検討する ・法人本部との連携強化	目標 <input type="text" value="通年"/>	:利用者の利用状況を見ながら、来年度の職員体制を検討し、法人本部に伝えた。
③財政基盤の強化(経営数値) :第4期指定管理者として指定を受ける 指定期間:令和3年4月1日から令和8年3月31日までの5年間 安定した経営管理の上、地域の福祉サービスの担い手として、責務を果たす :新規利用者と高い稼働率の確保による受託事業収入の増額を目指す 新規利用者の確保 (養護学校・相談事業所・訪問看護ステーション等の連携によって市内利用者を取り起こし、契約人数を増やしていく) 毎月2回土曜日に開所日を開所日と設け稼働率を上げる。開所日の上限を23日に近づける 「障がい者地域生活支援事業」に関する申請手続きの援助 行政が行う支援区分への助言(本人の状態にあつた区分決定)	目標 <input type="text" value="3"/> 人 目標 <input type="text" value="265"/> 日/年 目標 <input type="text" value="8"/> 人	・関係機関(高島市障がい福祉課、基幹相談支援事業所コンビニエンス、訪問看護ステーション)との連携により利用者の紹介を受けた。 ・1月1～2日開所日を設けていることで増収に繋がった。 ・3月末現在、契約者数71名で、昨年度より11名増え、死亡による契約解除1名あった。 ・土曜日にホリデーサロンと開所日を設け稼働率を上げた。 ・利用者からの要望に応じて申請手続きと区分判定時の立会いを行った。
④経営理念の明確化 :全職員が理念・基本方針のもと行動する 法人本部との連携強化 職員会議等で理念の唱和	目標 <input type="text" value="通年"/> 目標 <input type="text" value="通年"/>	・法人全体で行う研修や体制整備等に係る会議には、積極的に職員を派遣した。 ・毎月職員会議を行い、その場で理念、倫理綱領、行動指針の唱和を実施し浸透させた。
⑤効率的・効果的な事務規律の確立 事業所内の業務内容の必要性と役割を見直し、業務の効率化を図る ⑥トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実 (人材育成) :職員のスキルアップ 知的障がい者・精神障がい者・身体障がい者への支援スキルを習得するために、定期的に研修会を実施 :権利擁護意識の強化 講師による内部研修と外部研修の受講を計画的に実施 虐待防止委員会の設置と虐待防止に対する取り組みの見直し :職員の資格取得に向けての支援 資格取得に向けたサポート体制(社会福祉士・介護福祉士・ケアマネ等)	目標 <input type="text" value="通年"/> 目標 <input type="text" value="6"/> 回/年 目標 <input type="text" value="3"/> 回/年 目標 <input type="text" value="4"/> 月 目標 <input type="text" value="通年"/>	・業務内容は、事務分掌表で明確化することで、職員個々が責任を持って業務遂行できた。 ・新型コロナウイルス感染症予防のため、Web研修を利用し3か月に1回研修を実施した。 ・実績 <input type="text" value="4"/> 回/年 ・新型コロナウイルス感染症予防のため、Web研修に切り替え実施した。 ・実績 <input type="text" value="1"/> 回/年 ・新型コロナウィルス感染予防のため、Web研修に切り替え実施した。 ・「早期発見チェックリスト」の継続とチェックのあった項目に対しては職員会議の場で議論をした。 ・人事考課の面接時に専門的な資格習得や支援スキルを高める等について伝えた。

当年度活動方針と事業の進め方

<p>⑦情報収集の強化</p> <p>他機関との連携 (高島市役所・市内の相談事業所・働き暮らし応援センター・養護学校・医療機関・訪問看護ステーション等) 職員自らが、地域に向き情報収集(地域サロンの手伝い等)</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> </tr> <tr> <td>通年</td> </tr> </table>	通年	通年	<p>利用者の状況等に応じて、関係機関に情報提供をしながら、在宅での生活が継続できるように見守った。</p> <p>高島市自立支援協議会の専門部会に出席し、情報共有と連携をした。</p> <p>職員が「ふれあい食堂」及び「こども食堂」の手伝いに行き交流をした。今後も継続していく。</p>			
通年							
通年							
<p>⑧サービスの質の向上</p> <p>小規模事業所の利点を生かし、満足度の高いサービスの提供 保護者(家族)への相談機能を充実させ、レスパイトの役割を果たす 季節の野菜、旬の食材を使用した給食提供 重度心身障がい者を対象に入浴支援の実施</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> </tr> <tr> <td>通年</td> </tr> <tr> <td>通年</td> </tr> <tr> <td>2</td> </tr> </table>	通年	通年	通年	2	<p>土曜日に開所日を設けたことで、通所日数が増え重度心身障がい者の家族のレスパイトに繋がった。また、計画相談事業所と連携し利用者に必要な福祉サービスを紹介する等地域生活が継続できるように支援をした。</p> <p>地元旬の食材を使用し、季節感のある食事提供に努めた。</p> <p>引き続き火・金の週2回と開所日に重度心身障がい者等の8人に対して入浴支援を実施した。休日が続き入浴の間隔が空いた際には、臨機応変に対応をした。</p>	
通年							
通年							
通年							
2							
<p>⑨安全で衛生的なかつ快適な環境の整備</p> <p>衛生的な環境と感染予防対策(新型コロナウイルス等)の徹底 あらゆるリスクに備えた体制整備の強化 (第三者委員会・事故防止委員会・ヒヤリハット・事故報告・想定ヒヤリの取り組み強化と課題の抽出、対策の検討) 不測の事態に備え、避難訓練の実施(隣接する虹の会大地との協力体制の強化) マニュアルの見直しと職員や利用者に周知徹底 災害時、福祉避難所運営に向けた取り組みと運営マニュアルの見直し (福祉避難所への被災者受け入れを想定した訓練の実施)</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> </tr> <tr> <td>通年</td> </tr> <tr> <td>2</td> </tr> <tr> <td>11月</td> </tr> <tr> <td>11月</td> </tr> </table>	通年	通年	2	11月	11月	<p>新型コロナウイルス感染症の予防に対しては、職員にマニュアルの徹底を図った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の予防に、職員にマニュアルの徹底を図った。</p> <p>新設の新型コロナウイルス感染症の予防に、職員にマニュアルの徹底を図った。</p> <p>2回/年 実績 2回/年 9月にアンパンニ単独で避難訓練を実施し、3月は、大地と合同で実施した。</p> <p>職員会議の場で確認を行い周知をした。</p> <p>未実施のため早急に取り掛かる。</p>
通年							
通年							
2							
11月							
11月							
<p>⑩老人福祉施設と障害福祉施設の併設の強味を活かす</p> <p>歳暮祭との情報交換の場と連携</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> </tr> </table>	通年	<p>ふじみ祭りに参加する等、常時連携を図った。</p>				
通年							
<p>⑪地域における公益的な取り組み</p> <p>ホリデーサロンの実施により、障がい者が社会に出るきっかけと居場所の提供(継続)</p>	<table border="1"> <tr> <td>1</td> </tr> <tr> <td>回/月</td> </tr> </table>	1	回/月	<p>関係機関にチラシを設置し周知を図ったが目に見えた効果はなかったが、今後は手法を考えていく必要がある。</p> <p>職員数が少ないうえに、遠距離業務があることから、休憩が取れない状況であったが、7月から正規職員1名を雇用したことから、職員間でアイデアを出し合い改善に取り組んだ。</p>			
1							
回/月							
<p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <p>法人本部との連携を強化して、魅力ある職場環境の構築を図る</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> </tr> </table>	通年	<p>感染状況を見ながらWEB研修を実施した。</p>				
通年							
<p>⑬法人のブランド化</p> <p>職員は、専門的な支援スキルを高め、適切な支援をすることで、高島圏域での担い手となる</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> </tr> </table>	通年	<p>必要最低限度の備品は整っているが、現在使用しているパソコン立ち上がりが遅く使用年数も長いことから、来年度購入を検討した。</p>				
通年							
<p>⑭広報活動の充実(情報発信の強化)</p> <p>ホームページを使い活動内容等、情報発信の強化 公共の場にパンフレットを置き、事業所を周知 職員が精神障がい者や身体障がい者の当事者や保護者の集まりに参加し、事業所を周知</p>	<table border="1"> <tr> <td>通年</td> </tr> <tr> <td>通年</td> </tr> <tr> <td>通年</td> </tr> </table>	通年	通年	通年	<p>新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が解かれた後、視覚障害者協会、身体障害者福祉協会主催の行事に利用者と一緒に参加し交流をした。</p>		
通年							
通年							
通年							
<p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <p>WEB研修等の環境整備</p>	<table border="1"> <tr> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>最終</td> </tr> </table>	目標	最終	<p>必要最低限度の備品は整っているが、現在使用しているパソコン立ち上がりが遅く使用年数も長いことから、来年度購入を検討した。</p>			
目標							
最終							

当年度活動方針と事業の進め方

令和4年度(2022年度) 事業報告書

①契約者数及び利用実績

契約者数(人)	利用実績		職員数(人)	
	所要日数(日)	延利用者数(人)	2020年	2021年
2020年	29		8	
2021年	28	242	9	9
2022年	29	242	9	9
		255	5,148	

②訓練等給付費

年	訓練等給付費(円)	生産活動総額(円)	利用者工賃支払総額(円)	平賃工賃月額(円)
2020年	42,760,286	2,953,478	2,555,635	8,037
2021年	39,650,567	3,645,007	3,021,749	10,243
2022年	39,540,333	2,997,685	2,625,748	9,246

④経営状況

年	サービス活動収益	人件費	サービス活動増減差額	当期活動増減差額
2020年	47,109,344	29,797,511	4,619,693	4,302,454
2021年	44,375,116	29,104,572	2,413,906	2,063,283
2022年	43,909,096	26,224,161	5,410,054	2,789,455

- ①契約者数・利用実績について
- ・他事業所への移行による退所者が1人、市内相談事業所からつなぐた新規契約者が2人あり、令和5年3月31日現在の契約者数は1人増の29名となった。利用実績については、12月に事業所内で新型コロナウイルスの集団感染があり、3日間の閉所に加え利用者13人の利用減があったため、年間の延べ利用者数が前年度に比べ50人減少した。
- ②訓練等給付費について
- ・1年間で17日の土曜開所日を設けたことで合計開所日数が前年度に比べ13日増加した。しかし、長期休みの利用者増、事業所内での新型コロナウイルス感染症の流行による3日間の閉所及び延べ利用者数の減少、他事業所を利用する人の増加などが原因で、訓練等給付費が減少した。対応策として、事業所を休んでいる利用者を引きこもり支援のサロンに参加したり、一時的ではあるが長期休みの利用者の通所再開をサポートするなど、利用実績の増加に努めた。
- ③就労支援事業について(生産活動)
- ・受注加工部門は順調で、作業工程の見直しや利用者のスキルアップ、作業用補助具の工夫などにより効率化が図れ、前年度と同等の売り上げを達成できた。
 - ・自主製品部門は、昨年までの2年間、集ごもり需要により全国的に入浴剤の売り上げが伸びており、当事業所の「藤美人の湯」もその恩恵を受けて売り上げを伸ばしてきた。しかし、今年に入って同種の製品の全国的な売り上げ水準がコロナ前まで落ちたため、令和4年度の販売実績は前年度の約60%程度まで落ち込んだ。野菜の生産については、玉ねぎが寒雪の影響で不作、カボチャが夏場の異常高温で不作、サツマイモがウイルス性の病気により不作と、売り上げが伸びなかつた。売上げ低迷の打開策として、滋賀県障害福祉課主催のネットショップ「びわ湖まん福市場」に、サトイモと藤美人の湯を急遽出品し約10万円の売上げを計上したが、藤美人の湯の売上げの落ち込みが大きき、自主製品部門で約60万円の減収となった。
 - ・受注作業部門は、夏場の異常高温と得意先の社員増員による受注機会の減少、職員の新型コロナウイルス罹患による労働力提供の減少が原因で、前年度に比べ約10万円の減収となった。
 - ・内部売上部門は、藤美人に野菜の販売を行った。
- ④経営状況について
- ・人件費支出が抑えられた。昨年度次長と兼務であった本部事務局長が本部専属となったことによるが、代わりに、本部職員一人分の人件費の一部を拠点区分間繰入した。
 - ・事務費支出は、作業室のエアコンを修理したこと、前年度より約+8%増加した。
 - ・事業費支出は高額の物品購入はないものの灯油代・ガリソ代をはじめ、物価の高騰が影響した。また、12月の新型コロナウイルス感染症の集団感染による事業所閉所の際に施設内消毒・床清掃を行った。
- ⑤生活支援
- ・長期に事業所を休んでいた利用者の通所再開があったが、数日利用した後、家庭の事情により再び休まれた。
- ⑥環境・施設整備
- ・トイレ及び各部屋の扉が経年劣化により修繕の必要があった。藤の樹工房長寿命化計画をもとに検討し、修理を行った。
- ⑦その他(特筆すべき事項)
- ・特筆すべき事項なし。

前年度実績及び評価

<p>1: 目指す姿 どのような事業所を目指すのか。 利用者の個性を活かし、楽しく働くことで、充実した毎日が送れるよう支援する。その人にとっての「居場所」になる。 — 自分らしさを再発見！ 働く喜びを見つけよう。—</p>	<p>目標数値</p> <p>令和4年度の振り返り(取り組み実績)</p>
<p>① 法人本部事務局体制の充実 : 法人本部の機能充実に向けて本部と連携して取り組む</p>	<p>法人本部の方針に準じ、連携して実施した。</p>
<p>② 職員体制の再構築 : 法人本部と連携して事業量に見合う人員配置を再検証する</p>	<p>法人本部の方針に準じ、週に2~3日程度農作業に従事できる非常勤職員を1人雇用した。</p>
<p>③ 財政基盤の強化 : 新規利用者の確保と稼働率の向上による訓練給付費の増額を目指す ・新規利用者確保の目標 新旭養護学校・相談事業所・精神病院地域連携室との連携による市内利用者の掘り起こし。 令和5年度の受け入れ地域拡大に向け、準備を進める。 ・稼働率の向上の目標日数 4月より第1、第3土曜日を開所(月の開所上限23日に近づける) 上記を実施することで、目標値を達成する</p>	<p>目標 1 人 人</p> <p>目標 263 日 (単位:千円)</p> <p>・施設見学の依頼が2件あったが、利用には結びつかなかった。また、滋賀大学附属高等学校高等部2年生の実習を12月に受ける予定であったが、事業所の新型コロナウイルス感染症により実施できず、次年度に延期となった。 ・3月に新規利用者を1人獲得した。 ・利用者の受け入れ地域拡大について、令和5年度4月1日より運営規定を変更する手続きが完了した。 ・月間稼働日数を目標の23日に近づけるため、月2回程度、計17回土曜日に開所日を設けたことで、年間開所日数が255日となった。</p>
<p>④ 経営理念の明確化 : 法人本部と連携して理念・基本方針のもと、朝礼時に「たかしま会理念」を唱和する</p> <p>⑤ 効果的・効果的な事務規律の確保 : 法人本部と連携して事業所内の事務の見直しとコスト意識の醸成を図る : 「気づきメモ」による事務の合理化および危険回避 毎週月曜日「気づきメモ」の内容を報告し事務の合理化や危機管理等に努める。また、1年間の振り返り評価する。</p>	<p>通年</p> <p>・新型コロナウイルス感染症に配慮し、職員会議の前に全員で黙読した。 ・毎週月曜日の職員朝礼時、「気づきメモ」の内容を報告、職員全員で情報を共有し事故の未然防止に努めた。</p>
<p>⑥ トータルな人材マネジメントの整備 人材育成・サービスの充実 (人材育成) : 職員のスキルアップ(三障害に対する知識の習得) ・職員研修 強度行動障害基礎研修に参加する 強度行動障害実践研修に参加する 精神障害研修を受講 : 職員のスキルアップ(利用者工賃向上に対する知識の習得) ・職員研修 自閉症勉強会(発達障害者支援センターによるコンサル) 就労支援に関する研修(外部講師による研修・動画視聴研修・視察研修) 虐待防止研修 : 職員の資格取得に向けての支援 ・支援予定人数 大型特殊免許取得に向けての支援を行う : 楽しく働ける職場づくり 休憩時間の確保や福利厚生の充実等、安心して働ける職場づくりを行う。</p>	<p>目標 1 人 人</p> <p>目標 2 人 人</p> <p>目標 1 人 人</p> <p>目標 4 回 回</p> <p>目標 5 回 回</p> <p>目標 4 回 回</p> <p>目標 1 人 人</p> <p>・強度行動障害研修基礎研修に申し込むが抽選に外れ、参加できなかった。 ・強度行動障害支援者養成研修実践研修の受講を予定していたが、事業所の新型コロナウイルス感染症により受講できなかった。 ・今年度は該当する研修(精神保健医療福祉業務従事者研修<基礎コース>)の開催が予定されていたが、今年度は受講を員送り、次年度以降に実施することとした。 ・発達障害者支援センターのコンサルを受け、職員研修を実施した。 ・職員研修の時間を使得って動画を視聴した。 ・職員会議にて虐待防止研修を行った。虐待の芽に対する「気づき」の方を講うことについて話し合った。その他、ヒヤリ・ハット報告書の様式を記入しやすいものに一新し、情報が集まりやすい環境を整えた。 ・今年度は実施しなかった。 ・前年度同様、昼食時の利用者保護を当番制とし、職員の休憩時間を確保した。</p>

当年度活動方針と事業の進め方

<p>⑦情報収集体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 多職種連携を強化する 市・県・相談事業所・働き暮らし応援センター・特別支援学校・高島病院・琵琶湖病院・滋賀里病院 各グループホーム・B型事業所等との連携強化 SNSの有効活用 公式インスタグラム等の開設による全国の事業所との情報交換と交流を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 高島市自立支援協議会就労支援部会・精神保健福祉部会に参加し、情報収集や各機関との連携に努めた。 各種SNSの開設に向け、法人幹部職員を対象に勉強会を実施した。今後投稿及び運用に関する管理規定の制定等の準備を進めていく。ホームページについては、法人で運営管理委員会も立ち上げたため、それに準じて実施した。
<p>⑧サービスの質の向上</p> <p>〈就労支援事業への支援〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画の作成 利用者のニーズ調査を徹底し、自立支援につながる計画を作成する 虐待防止への取り組み チェックリストを評価する仕組みを作成する 第三者委員会等への情報提供 苦情案件はもちろん業務遂行上の課題を提出しサービスの向上に努める 利用者の長期欠席者への対応の充実 定期的な家庭訪問を実施する 就労者の育成 体験実習の受け入れ 体験実習を積極的に関与し、契約者の増加に努める 各種行事の充実 日帰り旅行や、5年奉等の企画は利用者目線でアレンジ化し、よう、職員がアイデアを出し合い検討する <p>〈工賃向上のための支援〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業指導員会議の充実 職路の検討(取り扱い製品、開設市場の御向調査、顧客獲得職路等) 自主製品販売店舗の拡大 既存の市内道の駅以外に販売先を開拓する。びわ湖まん福市場への積極的な参入。 自主製品のネットショップ販売 ショップ運営と戦略の検討 ポランテニア・職員OBの協力を得た増産体制を確立する ポランテニア募集を積極的に行う 製造工程の見直しにより、製造数アップを図る よもぎ湯の素原料の安定確保 従来作業に加え、シルバー人材にも委託し、原料確保の安定化を図る ヨモギの自家栽培に向け、耕作放棄地の選定、堆上げとよもぎ種子の入手・栽培を進める 重症障害者向け新商品の開発 作業工程の一部に、重症障害者が関われる試作品の検討をする 芸術作品等の商品化の検証 地域のアートイベントや大学と連携して開業プロジェクトを立ち上げ方向性を模索する 野菜のブランド化の検討 新商品種への挑戦と栽培マニュアルの作成、ブランド化に向けた検討をする(障害者十村作放棄地十地元高齢者二品種とスーパーズ) <p>当年度活動方針と事業の進め方</p>	<p>目標 2 回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画作成にあたり、事前に担当職員や利用者本人への課題や要望の聞き取りを行った。その後、支援計画会議を経て計画を作成、利用者に説明した。 虐待につながる可能性のある支援について情報共有を図った。 苦情はなかったが、苦情につながる恐れのある支援について、第三者委員会や職員会議で情報共有した。 相談支援事業所との連携で再通所に繋がったが、短期間で再び利用がなくなった。 一般就労の意思がある利用者はいるものの、移行する段階には達しなかった。 見学者は広く受け入れ、新規利用者への窓口は常に開いていた。体験実習の依頼も受けた。 春の花見会を桜の木の下で実施した。日帰り旅行は今年度も中止したが、代わりに秋の食事会を行った。また、忘年会を実施した他、今年度で退所する利用者のお別れ会も行った。 職業指導員会議において事業所全体の取組みについて検討した。 滋賀県社会就労事業振興センターによるコンサルテーションを受け、そこで紹介されたホームページの運営サイト「ベライチ」にて、ネットショップ開設の準備をした。その他、滋賀県障害福祉課社会活動系の主導による農福連携推進モデル事業「まん福市場」に野菜等を出品した。 全国的な入浴利便性の縮小から売上は半減したが、各販売所での商品はほぼ販売できた。 道の駅の繁七期には、ポランテニアや職員OBによもぎの袋詰めと計量の作業で協力を仰ぎ増産した。 赤十字奉仕団エキソ支部の協力を得て、利用者との交流しながら一緒に製造を行った。 従来通り、春に市内自生地での刈り取り作業を行った他、昨年度より効能の高い秋よもぎの刈り取りを行っている。前年度に比べ、売上高は半減しているが、原料はほぼ確保できた。エキソシルバー人材センターにも依頼し、刈り取り場所の確認や作業代金の調整などを行った。 道の駅での販売用に、入浴剤の新製品や木工製品を考案しているが、製品化には至らなかった。 原料の確保等の準備を進めた。 新型コロナウイルス感染症の影響により参集が難しく、方向性の検討に留めた。 現在のか所借り上げている畑のうち、1か所が無農薬栽培を試行し成功した。付加価値をつけた価格での販売実績も上げることができた。 <p>目標 1 店</p> <p>目標 250 袋/月</p> <p>目標 1 点/年</p>

<p>⑨安全で衛生的かつ快適な環境の整備</p> <p>：防災マニュアル・防疫マニュアルの見直し 各マニュアルを見直し、職員や利用者へ周知徹底する</p> <p>：消火訓練・避難訓練の実施 消防訓練がマンネリ化しないよう工夫しながら実施する</p> <p>：バリアフリー設備等の老朽化対策 定期的な館内の見回りによる点検と修繕を実施する</p>	<p>目標</p> <table border="1"> <tr><td>2</td><td>回/年</td></tr> <tr><td>2</td><td>回/年</td></tr> </table>	2	回/年	2	回/年	<p>・共通のホームページを使用することで各種マニュアルの整合を図った。</p> <p>・11月と3月に実施した。そのうち一回は、土砂災害を想定した訓練も並行して行った。</p> <p>・建築から18年が経過し、特に各部屋の扉と鍵の調整が難しくなってきたため、数か所修繕を行った。</p>		
2	回/年							
2	回/年							
<p>⑩老人福祉施設と障がい者支援施設の併設の強味を活かす</p> <p>：藤波園入所者との連携強化 土曜開所日のコーヒータイムや昔の遊び等による交流の企画、農作業の合同作業や、それに伴う収穫祭等のイベント開催の企画について</p> <p>二一六調査を行ない藤波園と協議する</p>	<p>目標</p> <table border="1"> <tr><td>2</td><td>回/年</td></tr> </table>	2	回/年	<p>・藤波園と当事業所の利用者や職員の交流を目的に、農作業を合同実施する方向で調整したが、新型コロナウイルスやインフルエンザの集団感染により実施を見送った。</p>				
2	回/年							
<p>⑪地域における公益的な取り組み</p> <p>：社会貢献事業「行こカー」へ協力 毎月第三金曜日に職員が出役する</p> <p>：地域の公的な活動への参加 要請に応じ、地域の研修活動、学校の福祉教育に講師として出役する</p> <p>足湯体験等イベントや健康教室への出前講座を行う</p>	<p>目標</p> <table border="1"> <tr><td>12</td><td>回/年</td></tr> <tr><td>2</td><td>回/年</td></tr> <tr><td>4</td><td>回/年</td></tr> </table>	12	回/年	2	回/年	4	回/年	<p>・毎月第三金曜日の午前に、予約があるときのみ出役した。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見送った。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見送った。</p>
12	回/年							
2	回/年							
4	回/年							
<p>⑫魅力ある職場環境の構築</p> <p>：法人本部と連携して魅力ある職場環境の構築を図る</p> <p>・楽しく働ける職場づくり 休憩時間の確保や福利厚生充実等、安心して働ける職場づくりを行う。(再掲)</p>		<p>・前年度同様、昼食時の利用者保護を当番制とし、職員の休憩時間を確保した。</p>						
<p>⑬法人のブランド化</p> <p>：全自主製品にロゴマーク貼り付け たかしま会で採用されたロゴマークを使用する</p>		<p>・よもぎ湯の業「藤美人の湯」のラベルに法人ロゴマークを入れた。</p>						
<p>⑭広報活動の充実(情報発信の強化)</p> <p>：HPや広報誌の発行を充実 法人本部と連携しHPや広報誌の充実を図る</p> <p>：ボランティア団体との共同作業の場の構築 長生・児童委員等に呼びかけ利用者と地域住民との共同作業の場を設け実施を認める</p> <p>：SNSの有効活用 公式インスタグラム等の開設による事業活動のPRを行う</p>	<p>目標</p> <table border="1"> <tr><td>4</td><td>回/年</td></tr> </table>	4	回/年	<p>・法人本部をはじめ法人内他事業所と連携して実施した。</p> <p>・春と秋に、マキノ民生委員・児童委員協議会と合同で、さつまいも及び玉ねぎの苗植えを実施した。</p> <p>・各種SNSの開設に向け、法人幹部職員を対象に勉強会を実施した。今後投稿及び運用に関する管理規定の制定等の準備を進めた。ホームページについては、法人で運営管理委員会も立ち上がったため、それに準じて実施した。</p>				
4	回/年							
<p>⑮先進的な技術やITの取り組み</p> <p>：新型コロナウイルスへの対応として外部研修の受講体制を整える</p> <p>リモート研修を受講できる設備を整える。</p> <p>：(再掲)自主製品のネットショップ開設準備</p> <p>戦略の検討(取り扱い、製品・開設市場の動向調査、顧客獲得戦略等)</p> <p>滋賀県社会就労事業連携センター講師によるコンサルテーションを受け</p> <p>：(再々掲)SNSの有効活用 公式インスタグラム等の開設による広報活動の展開</p>	<p>目標</p> <table border="1"> <tr><td>10</td><td>回/年</td></tr> <tr><td>4</td><td>回/年</td></tr> </table>	10	回/年	4	回/年	<p>・昨年度購入した専用パソコンを使用し、オンライン開催の研修や会議に参加した。</p> <p>・滋賀県社会就労事業連携センターによるコンサルテーションを受け、そこで紹介されたホームページの運営サイト「ペライチ」にて、ネットショップ開設の準備をした。その他、滋賀県障害福祉社会活動系の主導による農福連携推進モデル事業「まん福市場」に野菜等を出品した。</p> <p>・各種SNSの開設に向け、法人幹部職員を対象に勉強会を実施した。今後投稿及び運用に関する管理規定の制定等の準備を進めた。ホームページについては、法人で運営管理委員会も立ち上がったため、それに準じて実施した。</p>		
10	回/年							
4	回/年							

当年度活動方針と事業の進め方